

宿遺跡及び  
可児市市内遺跡発掘調査報告書  
(H28~29年度)

2020

岐阜県 可児市

宿遺跡及び  
可児市市内遺跡発掘調査報告書  
(H28~29年度)

2020

岐阜県 可児市



## 例　　言

1. 本書は、宿遺跡及び国庫補助金を受けて実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 本書には、平成28～29年度に実施した宿遺跡の本発掘調査及び市内の試掘確認・立会調査、久々利城跡の表探資料を掲載する。
3. 本書の執筆と編集は長江真和・村上慶介が担当し、執筆者は文末に明記した。
4. 各年度の現場及び整理作業の体制は次のとおりである。

### 平成28年度

教育長	籠橋義朗
教育委員会事務局長	長瀬治義
文化財課長	川合俊
文化財係長	安藤裕康
歴史資産整備係長	大津誠
調査・整理担当者	長江真和 織田真琴
作業員	黒田祐規子 多和田伴子 西田まゆみ 堀木彰 本田博志

### 平成29年度

教育長	籠橋義朗
教育委員会事務局長	長瀬治義
文化財課長	川合俊
文化財係長	松田篤
歴史資産整備係長	千田泰弘
調査・整理担当者	長江真和 織田真琴
作業員	黒田祐規子 多和田伴子 恒松勝己 寺田國春 西田まゆみ 堀木彰 本田博志 武藤淳司

5. 遺物の図面及び写真は、口縁部や底部など土器の特徴がわかるものを選別して掲載し、小破片は掲載していない。
6. 現地調査及び整理作業の過程で、下記の各氏及び各機関にご指導とご協力を賜った。特に高橋健太郎氏には繩文土器について多大なるご教授を賜った。  
(敬称・肩書略) 五十音順  
長田友也 亀谷泰隆 高橋健太郎 長屋幸二 平井義敏 増子康眞
7. 本書に掲載した出土遺物、図面、写真は、すべて可児市（可児郷土歴史館）で保管している。

## 目 次

### 例言

第1章 埋蔵文化財の有無照会	1
第2章 宿遺跡本発掘調査	4
第3章 平成28年度試掘確認・立会調査など	29
第4章 平成29年度試掘確認・立会調査など	44
写真図版	54

## 挿 図 目 次

図1 掲載遺跡位置図	3	図29 西野遺跡立会位置図	35
図2 宿遺跡調査位置図	5	図30 弥七田古窯跡立会位置図	36
図3 1区平面図及び土層図	7	図31 土田定安遺跡立会位置図	36
図4 SB1 埋甕1平面図及び土層図	8	図32 下恵土字清水地内試掘位置図	37
図5 SB1 炉跡平面図及び土層・断面図	8	図33 調査地内トレンチ位置図	38
図6 1区遺物実測図1	9	図34 北トレンチ平面図及び南壁土層図	38
図7 1区遺物実測図2	10	図35 南トレンチ平面図及び南壁土層図	38
図8 2区平面図及び土層図	12	図36 今渡字中鳴子地内試掘位置図	39
図9 2区土坑・埋甕土層図	13	図37 中鳴子トレンチ平面図及び北壁土層図	40
図10 SB2 炉跡平面図及び土層・断面図	14	図38 柿田遺跡立会位置図	41
図11 SB2 炉跡平面図及び立面図	15	図39 川合字上田地内試掘位置図	41
図12 2区遺物実測図1	17	図40 上田トレンチ平面図及び南壁土層図	40
図13 2区遺物実測図2	18	図41 久々利城跡立会位置図	42
図14 2区遺物実測図3	19	図42 牟田洞古窯跡立会位置図	43
図15 2区遺物実測図4	20	図43 土田字定安地内試掘位置図	44
図16 2区遺物実測図5	21	図44 トレンチ平面図及び北壁土層図	45
図17 2区遺物実測図6・3区遺物実測図	22	図45 遺物実測図	45
図18 3区平面図及び土層図	24	図46 窯体平面図及び立面図	47
図19 羽崎中洞古墳立会位置図	29	図47 d-d' 断面より間仕切り障壁見通図	47
図20 今渡字大清水地内試掘位置図	30	図48 d-d' 断面図	47
図21 調査地内トレンチ位置図	31	図49 柿田遺跡立会位置図	46
図22 北トレンチ平面図及び東壁土層図	31	図50 調査区及び遺跡範囲図	49
図23 西トレンチ平面図及び北壁土層図	31	図51 今渡字住吉浦地内試掘位置図	50
図24 東トレンチ平面図及び北壁土層図	31	図52 トレンチ平面図及び南壁土層図	51
図25 久々利城跡地形測量図	32	図53 遺物実測図	51
図26 久々利城跡表探遺物実測図	33	図54 土田城跡立会位置図	52
図27 金山城下町遺跡立会位置図	34	図55 今渡遺跡立会位置図	52
図28 久々利城跡立会位置図	34		

## 表 目 次

表1 埋蔵文化財の有無照会、集計表	1	表4 遺物観察表1	27
表2 H28~29調査一覧表	2	表5 遺物観察表2	28
表3 遺構計測表	26		

## 第1章 埋蔵文化財の有無照会

可児市では、市内遺跡発掘調査事業の一環として、市内の土地について埋蔵文化財の包蔵の有無について照会を文書で受け付け、回答している。これは、開発行為等に際し、埋蔵文化財を保護するため事前に把握してもらうだけでなく、その照会記録を残すことにより、事後の開発に対して可児市と開発業者双方がスムーズに協議し、対処しやすくするためでもある。平成28~29年度の照会件数は、次に示すとおりである。

年度	事業別	件数		回答内容					
		有	無	無	慎重	立会	試掘	本掘	現保
平成28年度 照会件数 708件	民間事業	59	647	646	10	26	20	2	0
	公共事業	2	2	1	0	3	0	0	0
	合計	61	649	647	10	29	20	2	0
平成29年度 照会件数 617件	民間事業	57	556	598	37	15	22	2	0
	公共事業	1	3	3	0	1	0	0	0
	合計	58	559	601	37	16	22	2	0

表1 埋蔵文化財の有無照会、集計表

※件数と回答内容の合計が同数となるのは、回答に複数の内容を含むものがあるととともに、1件の照会の中に複数場所の土地を含むもののが多々あるためである。

※慎重－慎重工事 立会－工事立会 試掘－試掘調査 本掘－本発掘調査 現保－現状保存

本件数はあくまでも有無の照会による回答であり、実際に事業実施に至っているとは限らない。試掘調査以外の各年度の保存目的調査及び本発掘、測量調査は下記のとおりである。

### 平成28年度

- ・宿遺跡の記録保存調査
- ・大萱古窯跡群（弥七田古窯跡）保存目的の発掘調査
- ・久々利城跡地形測量
- ・『大森奥山11号古窯跡発掘調査報告書－大森地内宅地造成に伴う発掘調査報告書－』刊行

### 平成29年度

- ・古城山古窯跡群学術調査（愛知学院大学合同調査）
- ・第6次美濃金山城跡発掘調査（滋賀県立大学合同調査）
- ・大森笹洞5号窯、6号窯記録保存調査（本報告書では概要を記載し、詳細な成果は平成30

年度刊行の報告書に譲る。)

- ・二野地区産出珪化木の移設保存・展示、現場説明会の開催（詳細な成果は平成30年度刊行の報告書に譲る。）
- ・柿田遺跡、柿田西遺跡発掘調査（本報告書では概要を記載し、詳細な成果は平成30年度刊行の報告書に譲る。）
- ・『大萱古窯跡群発掘調査報告書 II - 弥七田古窯跡 -』刊行

年度	番号	遺跡名	調査地	調査種類	調査原因	期間
28	1	宿遺跡	土田地内	本発掘	宅地開発	H28.4.14~5.12
	2	宿遺跡	土田地内	試掘	宅地建設に伴う道路建設	H28.5.12
	3	宿遺跡	土田地内	本発掘	宅地建設に伴う道路建設	H28.5.24~6.1
	4	羽崎中洞古墳	羽崎地内	立会	解説板の撤去、設置	H28.6.2
	5	今渡金屋遺跡	今渡地内	試掘	集合住宅新築工事	H28.7.5
	6	久々利城跡	久々利地内	測量	測量調査	H28.7.20~11.30
	7	金山城下町遺跡	兼山地内	立会	住宅新築工事	H28.8.8
	8	久々利城跡	久々利地内	立会	測量杭の設置	H28.8.30
	9	大萱古窯跡群（弥七田）	久々利地内	保存目的	内容確認調査、測量調査	H28.8.15~12.16
	10	西野遺跡	川合地内	立会	ガス管理設工事	H28.10.4
	11	大萱古窯跡群（弥七田）	久々利地内	立会	測量杭の設置	H28.10.13
	12	土田定安遺跡	土田地内	立会	境界杭設置	H28.11.2
	13	可児工業高校南遺跡	下恵土地内	試掘	住宅建設	H28.12.8
	14	鳴子西遺跡	今渡地内	試掘	分譲住宅新築工事	H29.1.12
	15	柿田遺跡	柿田地内	立会	建物解体	H29.2.16
	16	孤塚古墳	川合地内	試掘	住宅新築工事	H29.1.18
	17	久々利城跡	久々利地内	立会	看板設置	H29.2.23
	18	大萱古窯跡群（牛田洞）	久々利柿下入会地内	立会	美濃桃山陶の型地整備	H29.3.28
29	1	土田定安遺跡	土田地内	試掘	分譲住宅建設	H29.4.12
	2	大森筆洞5号窯・6号窯	大森地内	本発掘	中央新幹線建設に伴う記録保存調査	H29.6.27~9.28
	3	柿田遺跡	柿田地内	立会	集合住宅新築工事	H29.8.1
	4	古城山古窯跡群	兼山地内	学術調査	学術調査	H29.8.14~8.26
	5	美濃金山城跡	兼山地内	保存目的	整備基本計画策定のため	H29.9.2~10.27
	6	柿田遺跡・柿田西遺跡	柿田・平貝戸・瀬之上地内	試掘	区画整理に伴う範囲確認	H29.10.25~30.3.9
	7	今渡金屋遺跡	今渡地内	試掘	新築建物の建設	H29.11.24
	8	土田城跡	土田地内	立会	境界杭の設置	H30.1.15
	9	今渡遺跡	今渡地内	立会	建物解体・住宅新築工事	H30.1.25

表2 H28~29 調査一覧表

※平成28年度の調査のうち、28-9大萱古窯跡群（弥七田古窯跡）の調査及び測量は「大萱古窯跡群発掘調査報告書Ⅱ－弥七田古窯跡－」に詳細が記載されている。平成29年度の調査のうち、29-4の古城山古窯跡群は、「古城山窯跡第1次調査発掘調査概要報告書」、29-5美濃金山城跡の調査は「国史跡美濃金山城跡発掘調査概報Ⅰ」に詳細が記載されているため、それらを参照願いたい。

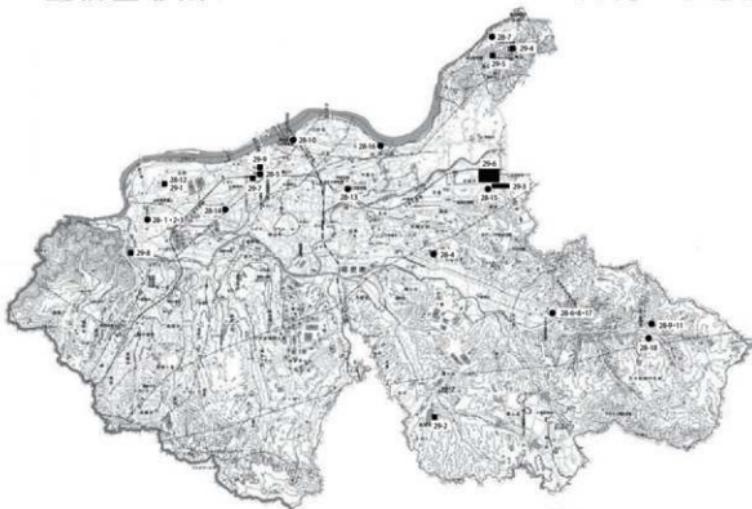


図1 掲載遺跡位置図

## 第2章 宿遺跡本発掘調査

### 第1節 経緯と経過

土田字宿地内において宅地開発が計画され、計画地の中で平成27年10月8日～16日にかけて試掘調査を行った。試掘調査の成果は平成29年3月に刊行した『可児市市内遺跡発掘調査報告書（H26～27年度）』にて報告を行ったが、その成果をもとに、住宅建設部分に対して記録保存調査を実施した。また、調査中に市道が通る区域が明らかになり、試掘調査を行ったところ、炉跡が検出された。その成果をもとに道路敷設部分に対し、記録保存調査を行った。道路部分を1区、住宅建設部分を2・3区とした（図2）。

宿遺跡について『可児町史通史編』には、「遺物散布地域は東西50m、南北30mの範囲で、石鏃や石匙等が採集されている。昭和四四年、塵芥処理用の穴（四平方メートル）よりかなりまとまった縄文中期の土器が出土した」と書かれており、土器では咲烟式、里木式、加曾利E式が出土した他、メノウ製の装身具や土製装身具、石斧、石錘、平板状石皿、すり石などが採集されている。

時間の制約から今回は遺構と出土した縄文土器の成果を報告する。

#### 文書手続き（住宅建設部分本発掘調査）

市教委発	平成28年4月8日付	教文第7号	埋蔵文化財発掘届出
県教委発	平成28年4月8日付	社文第63号の48	周知の埋蔵文化財包蔵地における 土木工事について（通知）
市教委発	平成28年4月14日付	教文第12号	埋蔵文化財の発掘調査報告
県教委発	平成28年4月18日付	社文第69号の2	埋蔵文化財発掘調査（通知）
市教委発	平成28年5月16日付	教文第19号	発掘調査終了報告

#### （道路部分試掘調査・本発掘調査）

市教委発	平成28年5月17日付	教文第24号	発掘調査終了報告（試掘）
市教委発	平成28年5月24日付	教文第29号	埋蔵文化財の発掘調査報告
県教委発	平成28年5月24日付	社文第69号の8	埋蔵文化財発掘調査（通知）
市教委発	平成28年6月2日付	教文第31号	発掘調査終了報告（本掘）

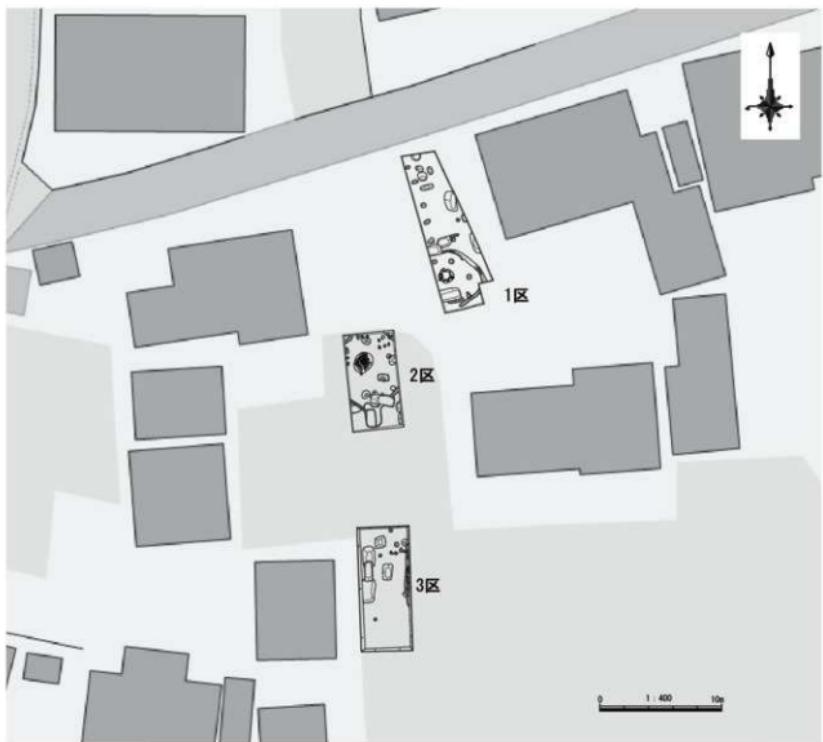


図2 宿跡調査位置図 (((C)岐阜県) を一部改変)

## 第2節 調査成果

### (1) 1区遺構（図3～5）

1区は約13.4m×4.5mの調査区を設定した。現地表面から50～70cm下の遺構検出面まで現代のカクランが入っているが、竪穴住居（SB1）1軒と性格不明な土坑21基を検出した。検出された竪穴住居は、半分程度は調査区外であるが、直径約5.0mで円形のプランを呈すると想定される。住居の周囲には幅20～30cm、深さ20～40cmの溝が巡り、住居の中心よりやや北側の位置に円形石囲炉が設置される。住居内には柱穴と考えられるSP1、SP2があり、直径約20cmを測る。SP1、SP2は深さ約25cm、深さ約16cmが残存し、配置から考えると4本支柱と想定される。床面では現代のゴミを伴うSK1、SK2などが見られるほか、床面上から山茶碗が出土するなど、床面まで改変が及んでいる。住居内の南方向に埋甕1（図6-1）が1基見られる。南側の周溝にかかるように出土し、底部及び口縁部が欠けている。口縁部付近は後世の改変により欠損していると想定されるが、神明式3期である。

炉跡は1.12m×1.20mを測り、砂岩及び濃飛流紋岩で円形に囲われる。基本的に側面に貼石等は見られないが、南側には平らな板石のような石材が貼り付けられている。底部は元々の地山に含まれる拳大の川原石を活かしつつ、不足部分にそれよりやや小振りな石材を一部敷いたと考えられる。炉の石材は北側及び南側、底の礫が被熱し、特に南側の石材は良く被熱している。炉跡内からは神明式2期古～繩文時代後期の土器も出土し、底付近には灰や炭等の堆積は見られない。埋甕の時期からSB1は神明式3期に該当する。

土坑のうち、SK1・3・5・8・10・14・21からは現代のゴミがみつかっている他、SK2・4は繩文、SK13は中世以降の土坑の可能性があるが、規則的な配列はみられない。

### (2) 1区遺物（図6・7）

調査地内では繩文土器が832点、石器が約20点、山茶碗が6点、須恵器、近世陶器がわずかに出土し、その内で52点を図化した。炉跡内を含めSB1から出土した土器は1～33であり、炉跡内では13のように後期と想定される土器も出土するが、神明式2期から4期におさまるものが出土地する。1はSB1から出土した埋甕である。渦巻文の中に横位、斜位の沈線を、その周辺にも縦位、斜位の沈線を施す。胴部の三方向は同じような文様で構成されるが、一方向のみ渦巻文を入れず、沈線のみ用いる。炉跡内からは2～15が出土した。4は貼付隆帯による渦巻文に刺突文、まわりに横位と縦位の沈線を施す。5は指による沈線後、区画内に条線文を施す。6・7は太めの沈線による渦巻文を描き、わずかに残る区画内に条線文を施す。8は貼付隆帯による区画内に条線文を施す。9は平行懸垂文の中に蛇行文を描き、その区画内に条線文を施す。10は波状口縁であり、区画内に条線文を施す。12は底部付近に斜縦文を施す。13は口縁部とそれより下に方向の異なる斜縦文を施す。14は注口土器の可能性が想定される。16は口縁部下の二条の沈線の一条に押引文を施す。17は沈線の下にわずかに条線文がみられるが、摩滅している。19は押引文による二条の沈線と沈線による区画内に条線文を施す。20は渦巻文の中に条線文を施す。21は口縁部の沈線下に連続刺突文、それより下部に斜位の沈線を施す。22は口縁部の沈線の上下に連続刺突文が施され、その下部にも連続刺突文を施す。23は沈線による区画をもうけ、地文は不鮮明ではあるが、燃糸文か。24は沈線による渦巻文と懸垂文を施し、その中に連続刺突文を施す。26は押し引きによる沈線と隆帯貼り付け後に沈線による渦巻文を施す。29は脚台部であり、斜位の沈線を施す。30・31はSP1から出土し、30は口縁部貼り付け後に刻み目を施す。31は繩文と条線文を地文とし、沈線による渦巻文を

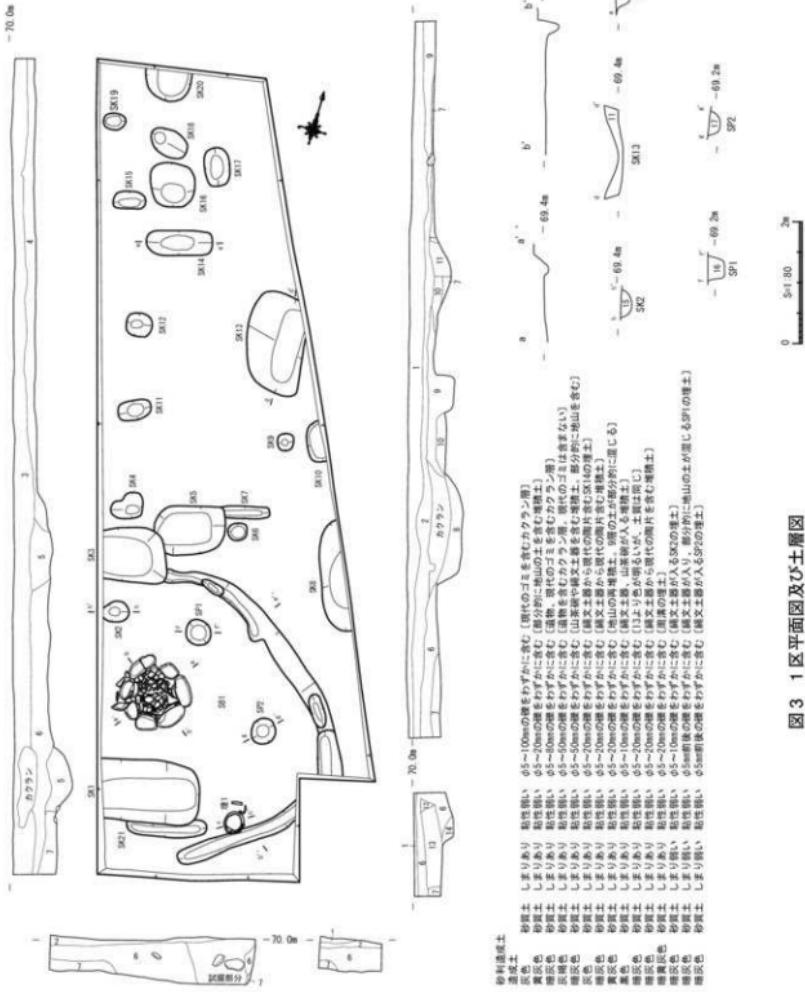




図 4 SB1 埋甕 1 平面図及び土層図

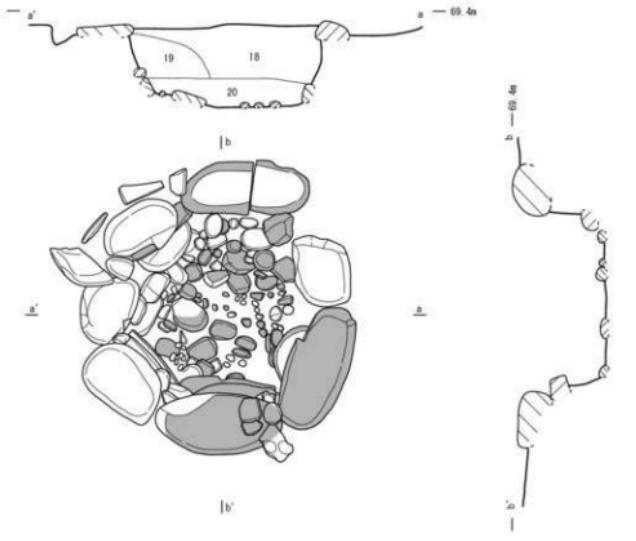


図 5 SB1 炉跡平面図及び土層・断面図

0 5-10 50cm



図 6 1区遺物実測図 1

0 S=1:3 10cm

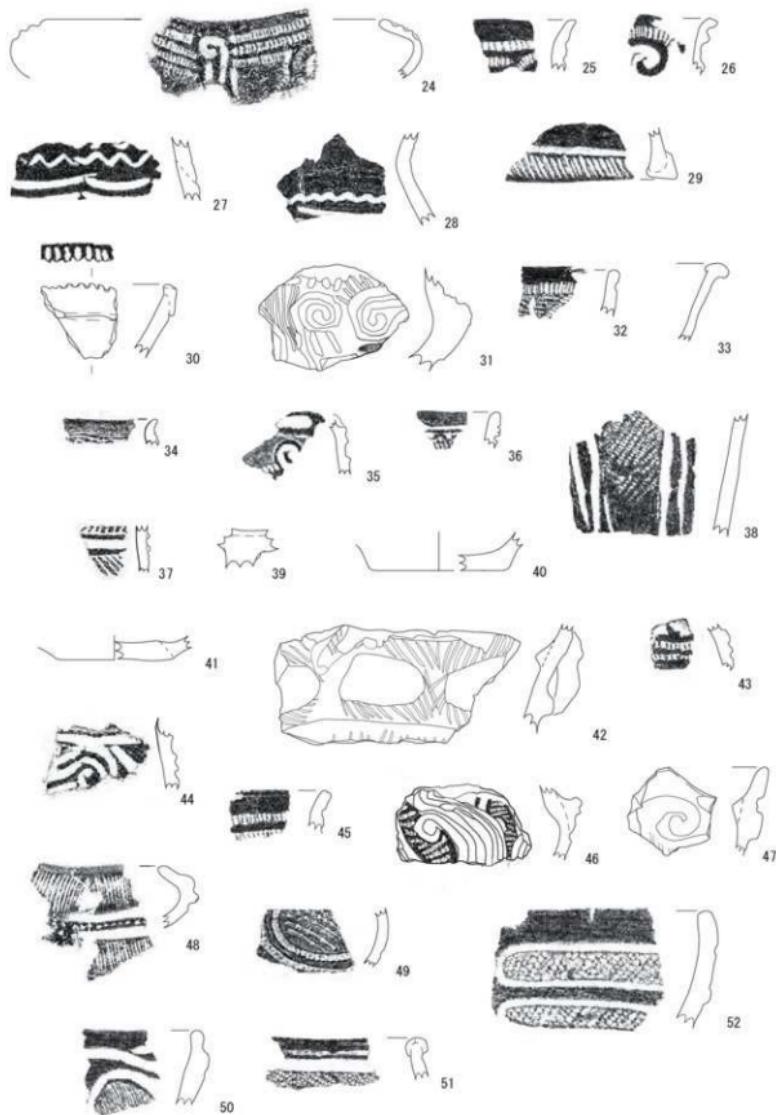


図7 1区遺物実測図2

0 S=1:3 10cm

施す。32・33はSP2から出土し、32は縄文が地文で、押し引きによる沈線を施す。33は近世陶器である。

SK1、SK2は現代のゴミが入る土坑で34～42が出土した。34は沈線と連続刺突文を施す。36は口縁部下に沈線、連続刺突文、縄文が施される。39は脚台部である。42は立体装飾に条線文を施す。43～52は現代のゴミが混じる堆積土から出土している。43・45は口縁部下に二条の沈線があり、その中に連続刺突文を施す。46は沈線による渦巻文を設け、そのまわりに竹管状工具で刺突文を施す。48は区画内に条線文、隆帶部分に刺突文を施す。49は押し引きによる沈線を施す。50は沈線による区画内に条線文を、51・52は区画内に縄文を施す。

### (3) 2区遺構 (図8~11)

2区は約8.0m×4.2mの調査区を設定した。現地表面から60～80cm下の遺構検出面まで現代のカクランが入り、竪穴住居(SB2)1軒と性格不明な土坑19基を検出した。

SB2は一部が調査区外であるが、一辺約6～7mの方形プランと想定される。幅約30cm、深さ10～20cm程度の断面U字形の溝(SD1～4)が巡り、炉跡は中心からやや北西側に設置される。柱穴と考えられるSP1、SP2の深さは50cm程度であり、位置関係からみるとSK5も柱穴の可能性もある。SP2からは多くの縄文土器が出土し、接合可能な個体(図14-5)もみられた。住居内では貼床はみられない。

住居内からは埋甕3基が検出された。埋甕1(図12-1)、3(図13-4)は口縁部付近及び底部が欠けており、後世の改変の際に上部が欠けてしまったと考えられる。埋甕2(図13-2)には底部が欠けているが、口縁部上に直径約25cmの川原石が土器の位置よりややすれて検出されており、蓋のようにあったものがずれた可能性がある。埋甕2の中からは別個体の土器(図14-3)が埋土から出ている。入口付近で埋甕が検出されることが多いことからも住居の入口は南東方向の可能性が考えられるが、埋甕が3箇所見られることからある時期に住居のプランが変更された可能性がある。

炉跡の掘り方の規模は1.8m×1.44mであり、石の組んでいる範囲は1.15m×1.18mである。炉は方形の石囲炉であり、濃飛流紋岩を主体として一部砂岩を用い、掘り込んだ地山の側面に貼って造られている。石材は東方向以外の三方向の石材が被熱して赤味を帯びており、石材の中には石皿を転用しているものも見られる。また、東側は石材が全体に比べてやや小振りな石材が用いられ、高さが低いことからも東側から煮炊き用の土器を置いたと想定される。炉南側には直径10cm程度の土坑がみられるが、炉に伴うものは不明である。炉の埋土は暗灰色砂質土であり、底部に炭や灰等の堆積はみられない。炉の底部には2個体の土器片(図14-6、図12-7)が外面を上に向けて、二重に重ねられて並べられていた。これらの土器に二次被熱の痕跡はみられない。土器を除いた底部には小型の濃飛流紋岩があり、範囲は50cm×50cmである。これらは敷いたものか地山に伴うものは不明であり、底部の石材に被熱した痕跡はみられなかった。SB2もSBIと同様に床面までカクランが及んでいるが、時期は炉内の敷いた土器から神明式3期と想定される。

土坑は埋土から遺物が検出されていないものが多く、土坑のうちSK12・14・15・17・18から現代のゴミが見つかっている他、SK1・2・6はSD1・2との切り合い関係から縄文時代以降の可能性が高く、他の地区で見つかっているゴミ穴と似ている。

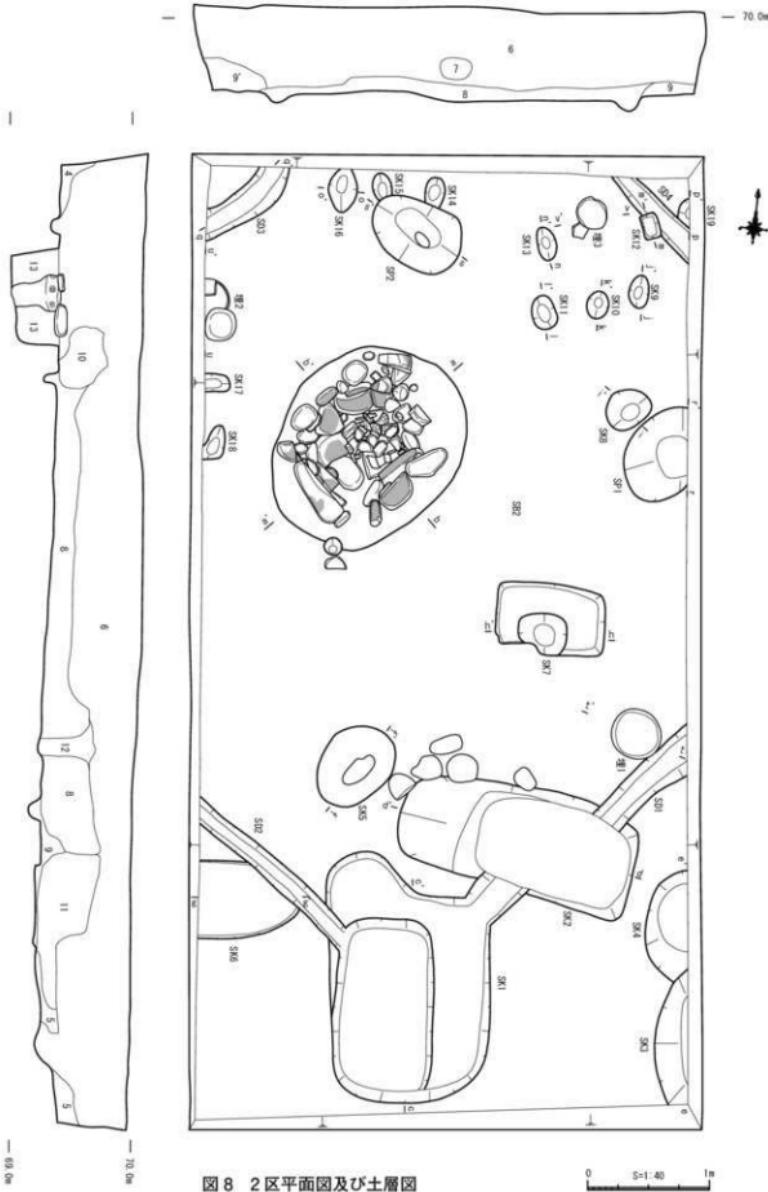
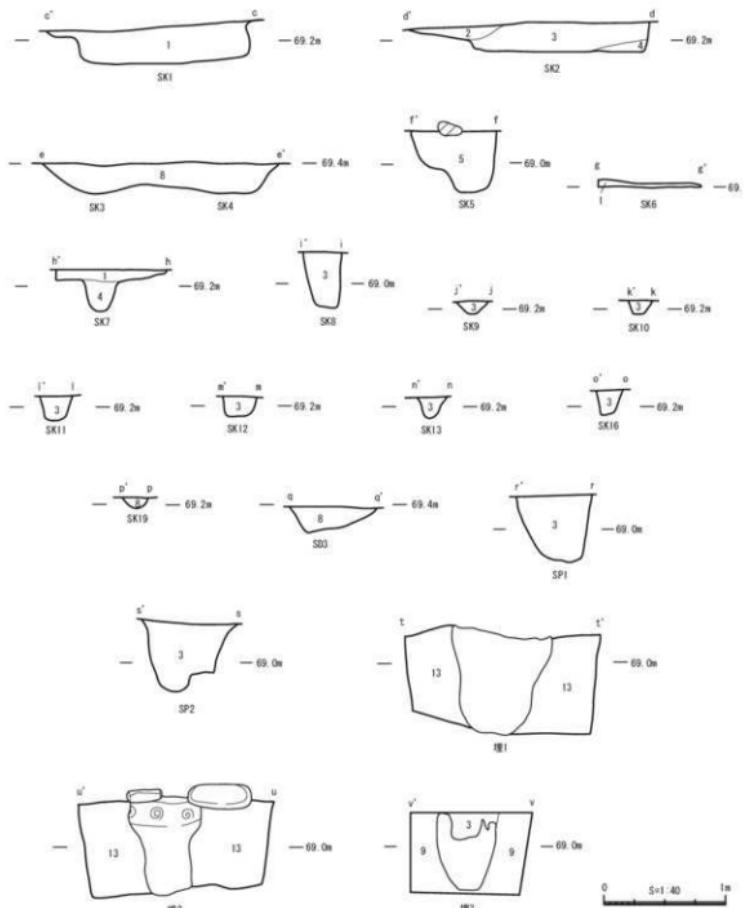


図8 2区平面図及び土層図

0 5-10 1m



1	黒色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim50mm$ の根をわずかに含む〔遺物を含み、部分的に地山の土を含む埋土〕
2	灰褐色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔部分的に地山の土を含む埋土〕
3	暗灰色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔遺物を含み、部分的に地山の土を含む埋土〕
4	褐色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔地山、(3)は地山の再堆積層〕
5	褐色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔遺物を含み、地山がほぼ混じらない堆積土、SK5埋土〕
6	暗灰色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔地山と(5)の間の堆積層〕
7	暗褐色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔地山、(7)は地山の再堆積層〕
8	褐色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔地山、(8)は地山の再堆積層〕
9	黄褐色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔地山、(9)は地山の再堆積層〕
10	暗灰色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔現代のカクラン層〕
11	黒色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔現代のカクラン層〕
12	黒色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔現代のカクラン層〕
13	黄灰色	砂質土	しまりあり	粘性弱い	$\phi 5\sim10mm$ の根をわずかに含む〔部分的に地山を含む〕
					0 5=1.40 1m

図9 2区土坑・埋糞土層図

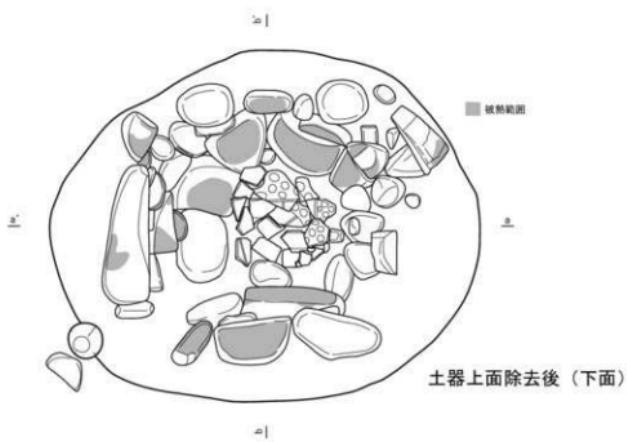
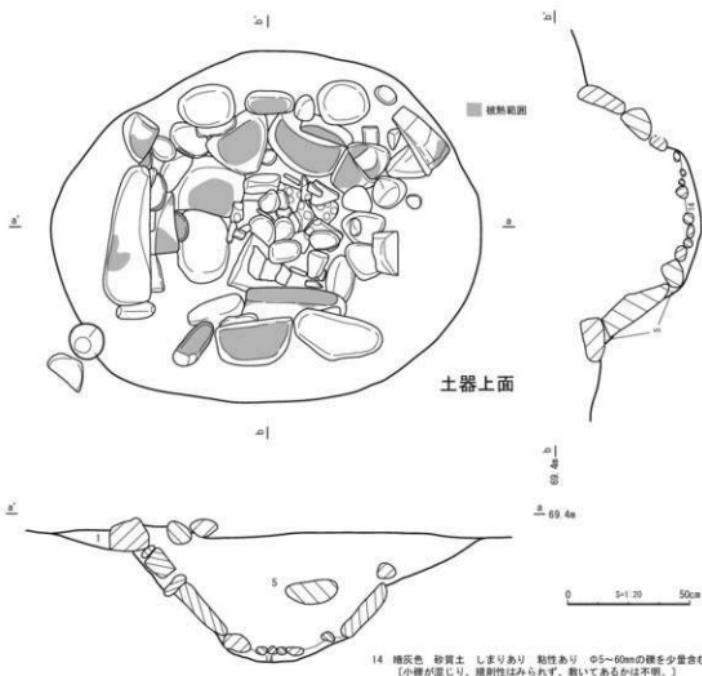


図10 SB2 炉跡平面図及び土層・断面図

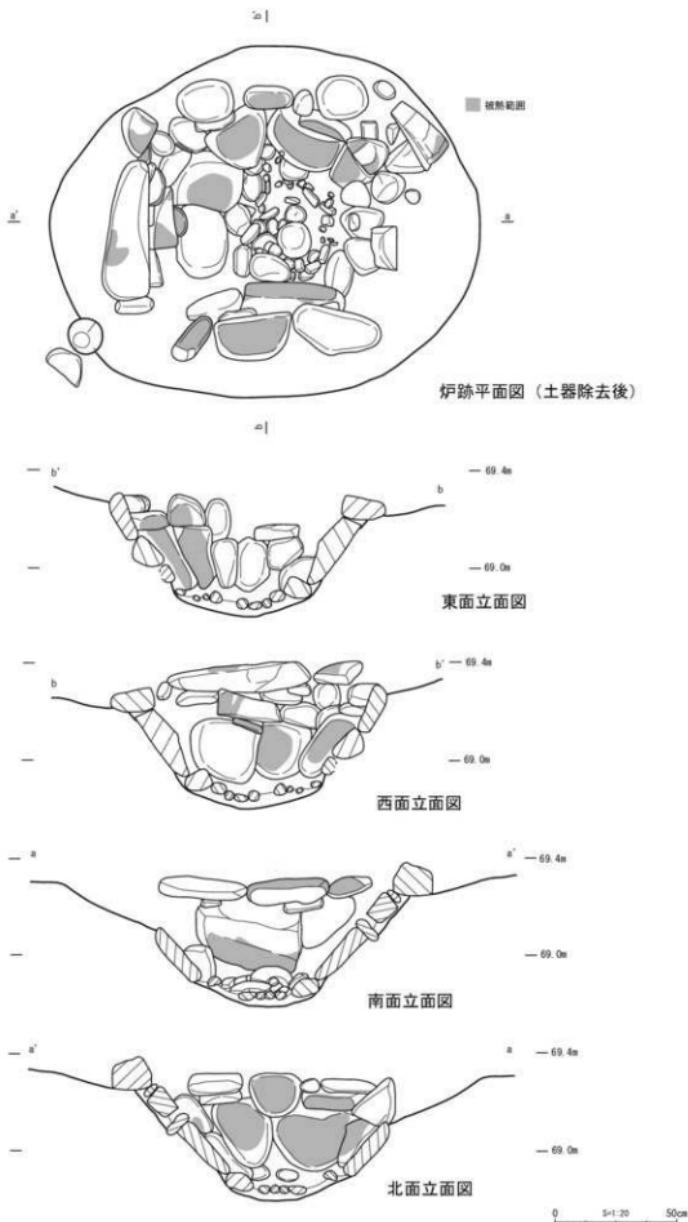


図 11 SB2 炉跡平面図及び立面図

#### (4) 2区遺物 (図12~17)

調査地内では繩文土器が1421点、石器が約100点、山茶碗が66点、須恵器、土師器、近世陶器がわずかに出土し、そのうち繩文土器を中心にして81点を図化した。

1~29は柱穴を含む住居内で出土した。1は埋甕1であり、底部が欠けている。頸部がくびれ、キャリパー形を呈し口縁部は丸く内湾する。懸垂文と渦巻文を含む楕円区画をもうけ、区画の中には繩文を施す。胴部には7条の波状線文がひかれ、それより下半はヘラ状工具により調整する。2は埋甕2である。キャリパー形を呈し、口縁部がくの字状に内曲し、上端は外反する。口縁上部は4条の懸垂文と横位の2条の太い沈線を巡らす。隆帯による弧線文及び渦巻文によって区画され、区画内に条線文を施す。胴部には7条の波状線文がひかれ。3は埋甕2の中から出土している。器形は鉢形で、隆帯による渦巻文等によって区画され、区画内に条線文を施す。4は埋甕3であり、頸部のくびれからキャリパー形を呈すると想定される。残存している部分で、胴部には5条の波状線文がひかれ、その下半はヘラ状工具により調整する。5・6は炉跡内から出土している。5は口縁部に立体的な装飾を施し、その区画には繩文を施す部分とつぶれて無文の部分がある。頸部付近から口縁部にかけて緩やかに外反し、胴部には平行懸垂文を入れ、その区画の中には繩文を施す。6は頸部がくびれ口縁部は外反する。口縁部には立体的な装飾をつけ、装飾には斜めの沈線を施す。胴部には蛇行文や渦巻文、楕円形の区画を設け、区画内には矢羽根状沈線列を施す。7はSP2から出土している。頸部のくびれはやや弱く口縁部がくの字状に内曲し上端は外反する。懸垂文と渦巻文を含む楕円区画をもち、区画内には繩文を施す。胴部には4条の波状線文がひかれ。8の地文は燃糸文で、竹管状工具で弧線を施す。9の地文は燃糸文で、口縁部に交互刺突文、それより下部に渦巻文などを沈線で施す。11は波状口縁であり、残存部に文様はみられない。12は口縁端部に斜位、その下に縦位の条線文を施す。13は隆帯による区画の中に条線文を施す。15は脚台部と想定され、外面に隆帯を貼り付ける。16は土師器の長胴甕であり、外面にハケ目を施す。18は口縁部は貼り付けて肥厚し、その下に条線文を施す。19は胴部であり、条線文と沈線による渦巻文等を施す。20は口縁部に刻み目と刺突文、その下部に沈線による文様を施す。21は胴部貼り付け後に刺突文を施し、その下に繩文を施す。22は口縁部に沈線と刺突文、口縁部下に燃糸文を施す。貼り付けた渦巻文ははがれている。船元Ⅲ式A類か。23は条線文を地文とし、波状線文と4本の沈線を施す。24は燃糸文を地文とし、弧線、水平線を施す。25は地文は燃糸文で、口縁部には交互刺突文を施す。27は竹管状工具で口縁部に刺突文を施す。29は胴部に横位の断続的な沈線を施す。

30~34は現代のゴミを含むSK1、SK2から出土した。33は無文であるが、指おさえにより口縁部外面に凹みをもつ。

35~41は埋甕付近から出土している。35は地文は燃糸文で、半裁竹管状工具により沈線を施す。胴部にはコンバス風の文様がみられる。37は貼付隆帯に刺突文、沈線による区画の中に条線文を施す。38は口縁部は沈線をはさんで条線文を施し、胴部は立体装飾による渦巻文と沈線により区画し、区画内に繩文を施す。40は波状口縁で、口縁部と貼付隆帯に刻み目を施す。

42~81は現代のゴミを含む堆積土から出土している。43は口縁部下に連続刺突文と燃糸文を施す。44は燃糸文を地文とし、4本の波状線文を施す。45は口縁部に交互刺突文、沈線による区画内に燃糸文を施す。49は口縁部に交互連続刺突文、4本の沈線を施す。50は押引きによる沈線を施す。54は口縁部に連続刺突文、沈線による区画内に繩文を施す。56は沈線に

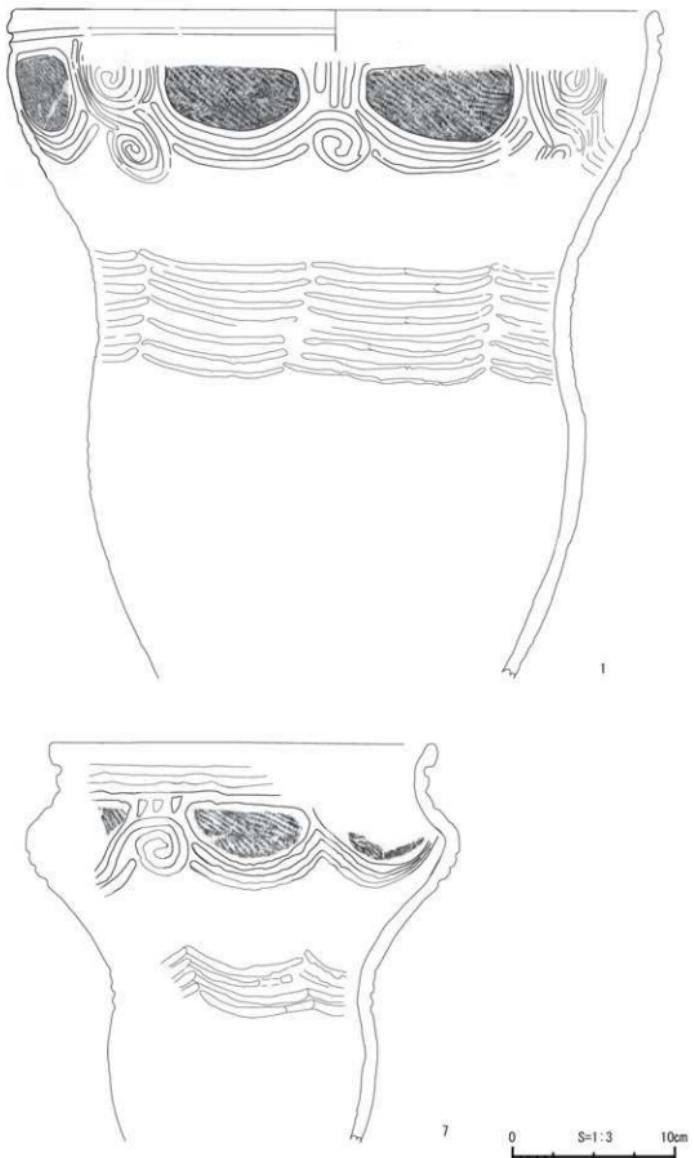


図 12 2区遺物実測図 1

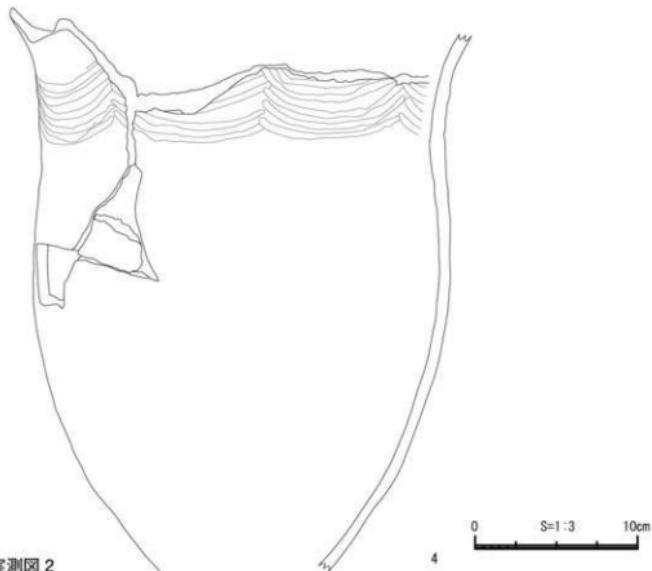
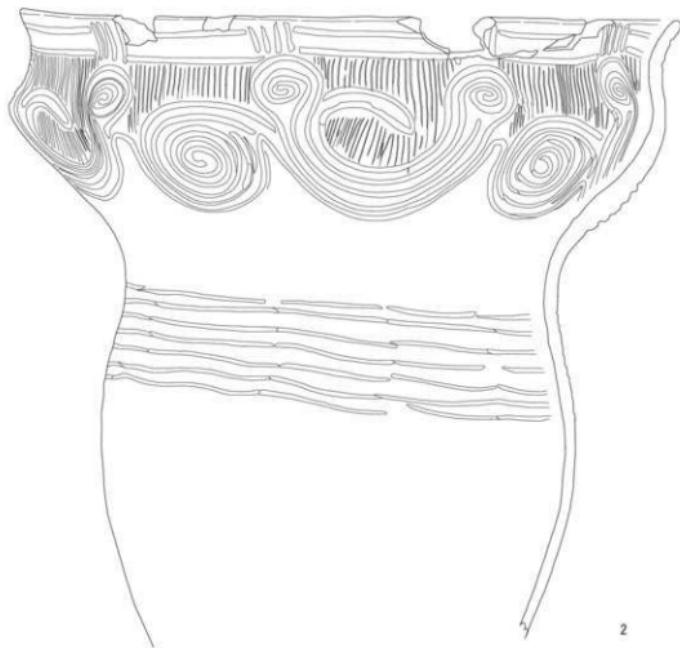
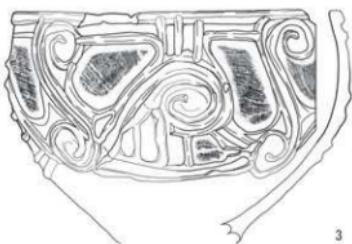
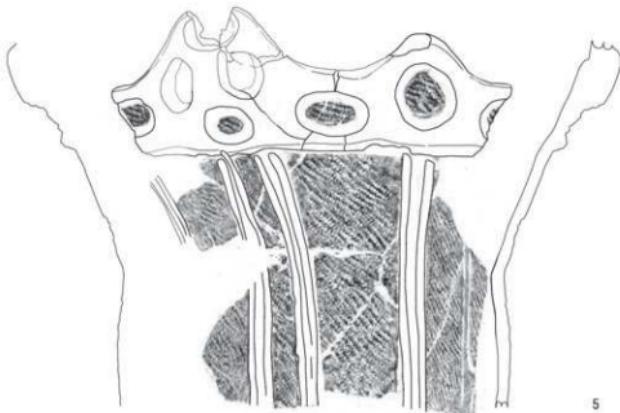


図 13 2 区遺物実測図 2

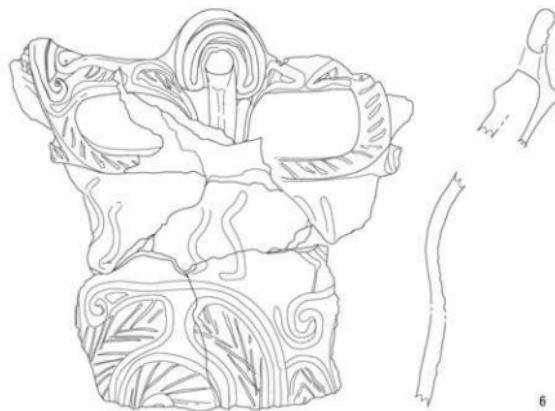
0 S=1:3 10cm



3



5



6

図 14 2 区遺物実測図 3

0 S=1:3 10cm

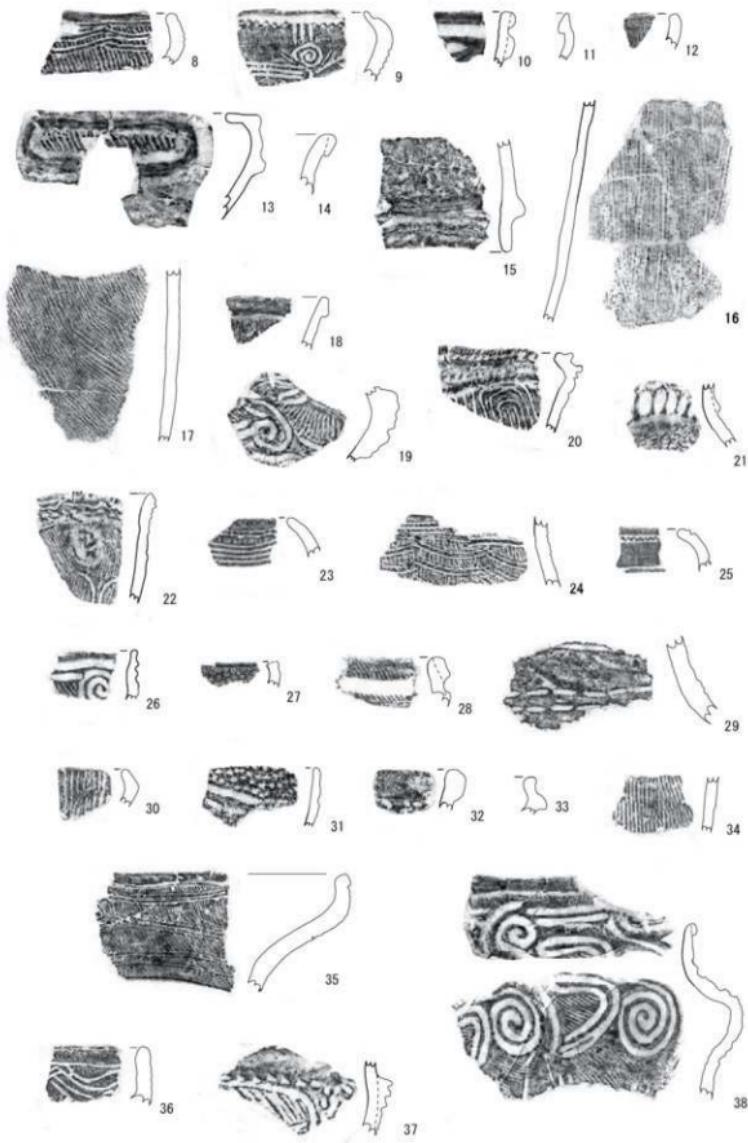


図 15 2区遺物実測図 4

0 S=1:3 10cm

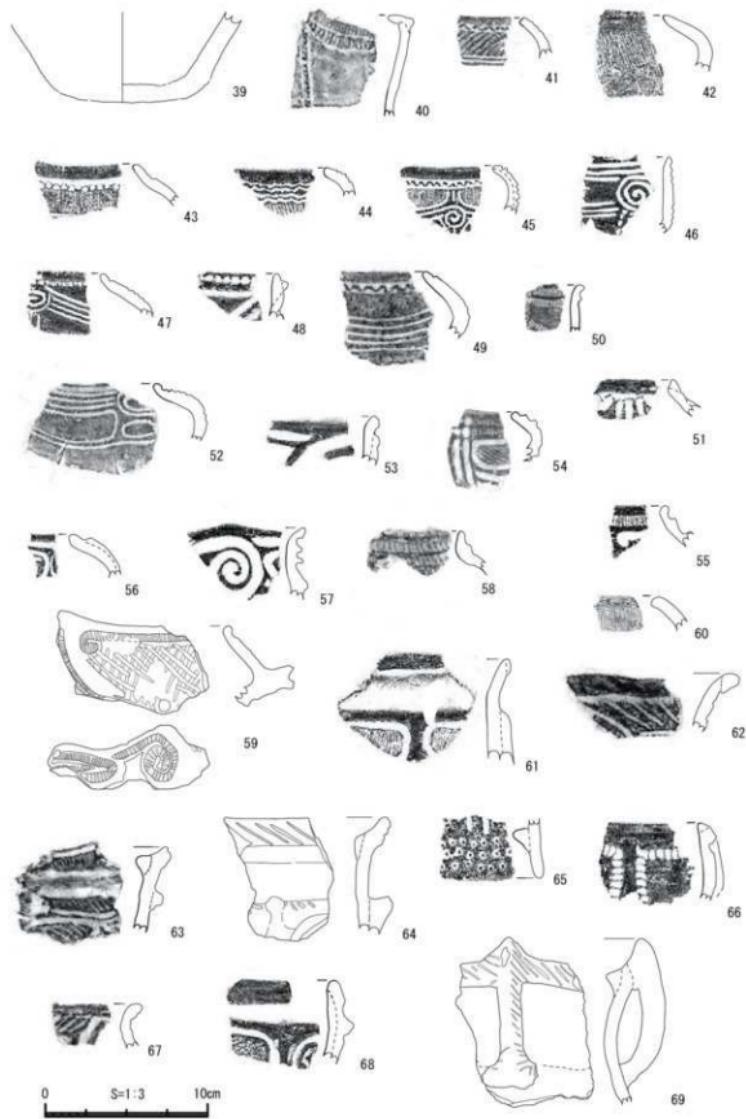


図 16 2 区遺物実測図 5

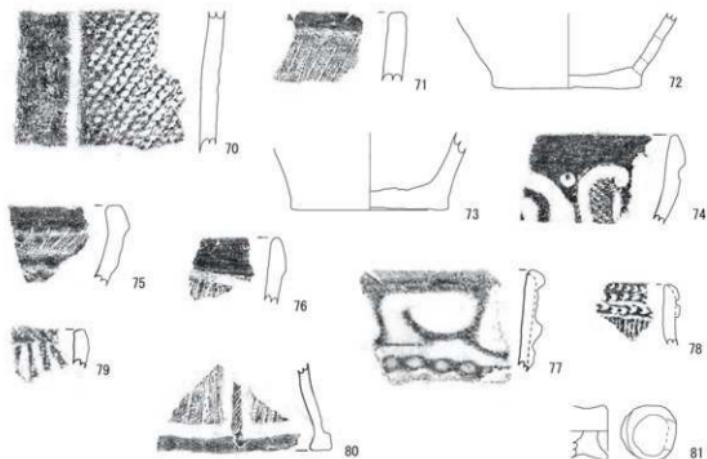


図 17 2区遺物実測図 6・3区遺物実測図

による区画内に縄文を施す。58は二条の押引文を施す。59は貼り付けにより網目を施し、沈線による渦巻文の中に連続刺突文を施す。内面には隆帯を貼り付ける。63は口縁部内面に貼付隆帯を有し、口縁部と外面の貼付隆帯に刻み目、隆帯より下部に条線文を施す。64は口縁部に条線文、立体装飾に刺突文を施す。65は脚台部と思われ、竹管状工具による刺突文と懸垂文を施す。66は口縁部に貼付隆帯をもうけ、その周りに連続刺突文を施す。68は隆帯による区画内に縄文を施す。69は立体装飾であり、装飾部分は一部はがれている。立体装飾には斜位の条線文を施すが、片面は沈線が摩耗している。70は複節縄文を地文とする加曾利E系か。75は口縁部下の貼付隆帯に方向の異なる条線文を施す。78・79は船元II式と想定され、78は燃糸文を地文とし、口縁部の上面と外面に刺突文を施す。79は貼り付け部分に縄文を施す。80は脚台部と想定され、貼付隆帯に刻み目、区画内に条線文を施す。81は形から耳飾りの可能性があり、片面は端部がほぼ残るが、片面は欠けている。

#### (5) 3区遺構（図18）

3区は約8.0m×4.2mの調査区を設定した。地表面から約1.0mで遺構面となり、堆積土は黒色や灰褐色砂質土とその土に地山が混じり、部分的にカクランも見られる。遺構面に土坑が14基と溝が1条検出された。検出されたSK7、SK11、SK14は埋土に現代のゴミや陶磁器が入り、土坑や溝が検出された面まで後世の改変が入っている。山茶碗等の遺物が入るSK1、SK2、SK3、SK5は中世以降の土坑の可能性もあるが、埋土に一部地山の土が混じるなど時期は確定できない。その他の土坑は、埋土に遺物を含まず、規則的な配置が見られないことから土坑か現代の掘り込みなのか性格は不明である。SD1は埋土から山茶碗が出土しているため、中世以降の溝の可能性もあるが、現代の陶磁器片を含むSK14を掘りこんでいることから現代の溝と考えられる。3区で検出された土坑及び溝は1区と2区で検出された堅穴住居のように明確に時期が比定できるものはない。

#### (6) 3区遺物（図17）

調査地内では縄文土器が785点、石器が約60点、山茶碗が42点、近世陶器、須恵器、灰釉陶器がわずかに出土し、そのうち4点を図化した。

1は口縁部上端に刺突文を、下部に渦巻文を施す。3は刺突による渦巻文を施す。4は貼付隆帯部分に刻み目を施す。

### 第3節 まとめ

今回の調査で、今まで散布地として認識されていた宿遺跡で、初めて堅穴住居が2軒（SB1、SB2）検出された。後世の改変は入っているものの2軒の堅穴住居とそれに伴う炉跡や複数の埋甕等が検出されたのは大きな成果といえる。

検出された2軒の住居を比較する。円形の堅穴住居SB1は4本支柱と想定され、方形の堅穴住居SB2は柱は2本検出されているが、配置は判然としない。石囲炉の出現は岐阜県内では中期中葉とされる門垣戸遺跡1号住居から認められ、同時期と考えられるSB1、SB2とともに石囲炉を有する。ただ、SB1は円形で上面に配石し側面の一部に貼石を伴うタイプであり、SB2は方形プランで側面に貼石を行うタイプと違いがみられる。SB1のような円形の炉跡は同市内の宮之脇遺跡B地点SB11、16でもみられるが、SB2のような貼石を伴う大型の炉は管見

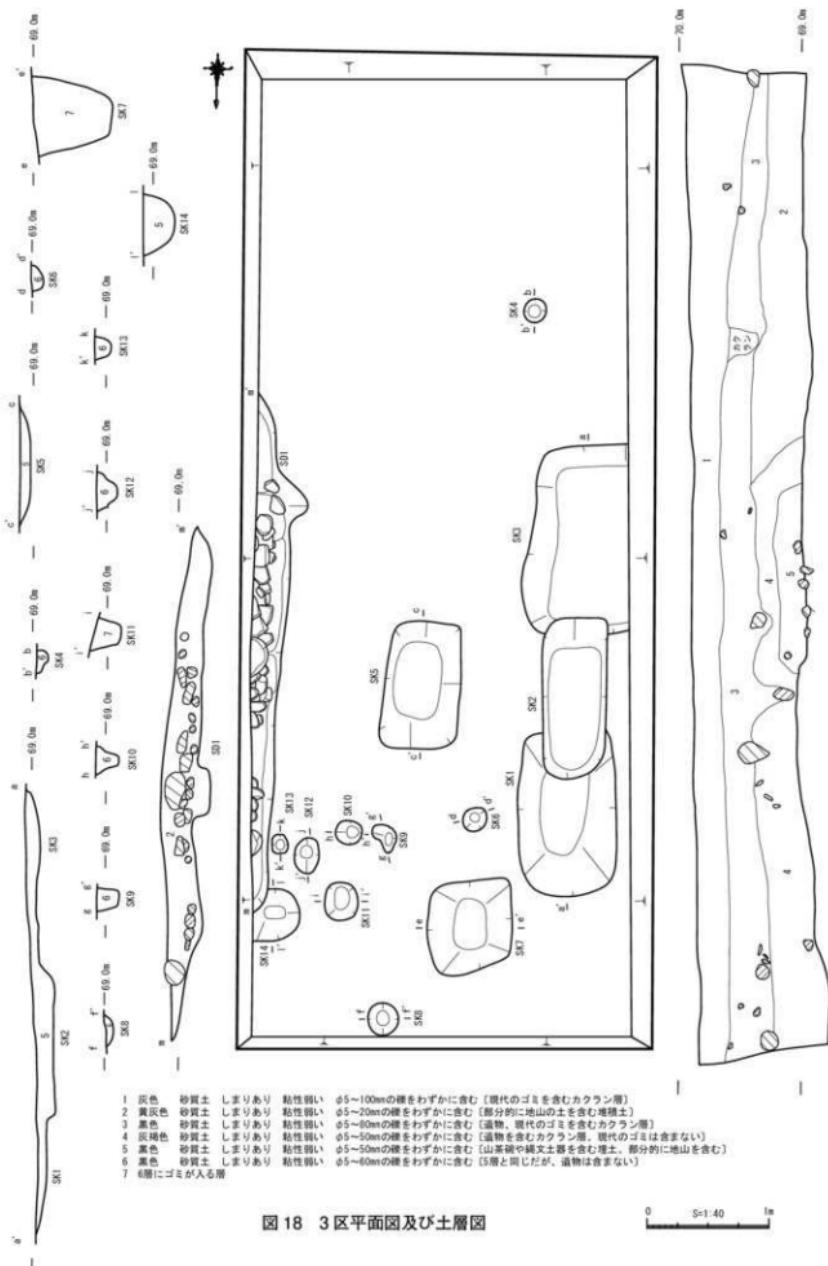


図18 3区平面図及び土層図

の限り、岐阜県内にはみられない。また、SB2の炉内は灰や炭化物等の堆積層はみられず、底には二次焼成の痕跡がない土器片が外面を上に向けて重ねるように敷かれた状況で検出されている。炉に土器が敷かれた例は、戸入村平遺跡 SB17の地床炉に土器が表向きに貼り付けてあるものがみられるが、土器の下部に厚さ2~3cmの焼土層がみられるため、これとは様相は異なる。また、阿曾田遺跡第41号A住居址や塚原遺跡 SB5でも石囲炉の中に5個体程度の土器が敷かれているほか、塚奥山遺跡 SB14では炉の廃棄に伴い土器が敷かれた例もみられる。宿遺跡 SB2の場合煮炊きに際してたまたま灰や炭化物を出した後にこれらの土器を底に敷いたことを意味し、これは炉の廃棄に伴う地鎮のような行為の可能性が考えられる。この敷かれた土器の破片の一部は炉の埋土内にも含まれ、接合を行っても底部が欠け、残存率は4分の1以下である。

埋甕はSB1からは1個体、SB2からは3個体が検出された。SB2の場合、埋甕1は周溝のやや内側、埋甕2は炉跡付近、埋甕3は周溝と接するように検出され、出土傾向は異なる。また、埋甕2は土器の中の埋土内に別個体の土器片が入り、蓋のような大きな川原石が横で検出されている。SB1・SB2で検出された4基の埋甕はどれも神明式3期にあたり、この2軒の住居が同時期に存在していたと想定される。

縄文土器は3地区から多くの量が出土し、特に神明式2期古、3期が多く出土した。今回は出土した石器は時間の制約で掲載が難しかったため、次回の報告に譲ることとしたい。

#### 追記

調査中には近くにある土田小学校の生徒が下校中に寄って見学したり、授業の時間を利用しての現場説明会を実施することもできた。SB2の貼石の炉跡は珍しく貴重であるため調査地から外して、土田小学校内的一部スペースに復元移設を行い、地域の歴史を伝えていくことができた。これも地権者でもあり、可児市の歴史や文化財を探求し、守ってこられた故亀谷泰隆氏のご厚意があったからである。文末ではあるが、深謝の意を表する。

(長江)

1区

遺構名	遺構上端		深さ (cm)	遺物	備考
	直径 (cm)	長さ (cm)			
SK1	(160)	104	32		現代
SK2	(40)	36	24	繩文	
SK3	(104)	92	30		現代
SK4	52	40	18	繩文	
SK5	116	80	24		現代
SK6	28	32	12		不明
SK7	(60)	20	22		不明
SK8	180	(40)	40		現代
SK9	24	24	8		不明
SK10	68	(24)	16		現代
SK11	56	32	6		不明
SK12	36	40	6		不明
SK13	152	96	20	山茶碗	
SK14	108	40	20		現代
SK15	56	56	24		不明
SK16	72	72	32		不明
SK17	64	40	15		不明
SK18	64	40	34		不明
SK19	36	28	12		不明
SK20	76	(48)	30		不明
SK21	132	(32)	20		現代
SP1	44	40	25	繩文	
SP2	40	40	16	繩文、近世陶器	

3区

遺構名	遺構上端		深さ (cm)	遺物	備考
	直径 (cm)	長さ (cm)			
SK1	138	80	6	繩文、山茶碗	
SK2	132	52	14	繩文、山茶碗	
SK3	156	(80)	8	繩文、山茶碗	
SK4	16	18	8		不明
SK5	108	60	8	繩文、山茶碗	
SK6	20	20	10		不明
SK7	68	74	64		現代
SK8	28	24	6		不明
SK9	24	20	20		不明
SK10	20	20	20		不明
SK11	32	26	20		現代
SK12	28	20	16		不明
SK13	16	12	12		不明
SK14	44	(38)	22	繩文、山茶碗	現代
SD1	424	(40)	20		不明

2区

遺構名	遺構上端		深さ (cm)	遺物	備考
	直径 (cm)	長さ (cm)			
SK1	212	132	32	繩文、山茶碗	
SK2	196	88	24	繩文	
SK3	(110)	(28)	24	須恵器	
SK4	(92)	(34)	24	須恵器	
SK5	72	36	50	繩文	
SK6	(84)	64	6		不明
SK7	88	60	34		不明
SK8	38	32	44		不明
SK9	26	16	10		不明
SK10	24	18	12		不明
SK11	28	20	20		不明
SK12	20	14	16		現代
SK13	28	16	18		不明
SK14					現代
SK15					現代
SK16	(36)	24	20		不明
SK17					現代
SK18					現代
SK19	(24)	(10)	8		不明
SP1	(54)	72	52	繩文	
SP2	80	54	56	繩文	

表3 遺構計測表

## 1区

回版	種類	器種	遺構・層位	型式	部位	地文	口径	器高	底径
1	陶文土器	深鉢	埋甕1	3期	肩部	沈縫	(20.5)		
2	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	2期古	口縫部	刺突文	(1.6)		
3	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	2期古	口縫部	沈縫	(2.7)		
4	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	2期古	肩部	刺突文	(4.8)		
5	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期	口縫部	条縫文	(5.8)		
6	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	口縫部	条縫文	(4.8)		
7	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	口縫部	条縫文	(5.8)		
8	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	口縫部	条縫文	(5.2)		
9	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	肩部	条縫文	(3.8)		
10	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	口縫部	条縫文	(8.3)		
11	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	口縫部	陶文	(6.0)		
12	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	3期か4期	底部	陶文	(6.0)		
13	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	4期か	口縫部	陶文	(10.6)		
14	陶文土器	注口土器?	炉跡内堆積土	後期か	肩部		(3.7)		
15	陶文土器	深鉢	炉跡内堆積土	時期不明	口縫部	条縫文	(4.9)		
16	陶文土器	深鉢	SB1床面	2期	口縫部	押引文	(1.8)		
17	陶文土器	深鉢	SB1床面	2期古か	口縫部	条縫文	(2.7)		
18	陶文土器	深鉢	SB1床面	2期か	口縫部	沈縫	(2.4)		
19	陶文土器	深鉢	SB1床面	3期	口縫部	条縫文, 押引文	(3.9)		
20	陶文土器	深鉢	SB1床面	3期	肩部	条縫文	(5.2)		
21	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期古	口縫部	刺突文	(4.0)		
22	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期古	口縫部	刺突文	(2.5)		
23	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期古	口縫部	撚糸文か	(20.0)	(2.7)	
24	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期古	口縫部	押引文	(3.6)		
25	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期新	口縫部	押引文	(3.1)		
26	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期新	口縫部	刺突文	(3.5)		
27	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期新か	肩部	沈縫	(3.8)		
28	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	2期	頭部	波状縫文	(5.7)		
29	陶文土器	深鉢	住居内堆積土	3期	脚台部	条縫文	(3.2)		
30	陶文土器	深鉢	SP1	2期古	口縫部	刺目文	(4.5)		
31	陶文土器	深鉢	SP1	2期	肩部	条縫文, 繩文	(6.3)		
32	陶文土器	深鉢	SP2	2期新	口縫部	陶文	(2.9)		
33	近世陶器	變	SP2	江戸後期	口縫部		(4.8)		
34	陶文土器	深鉢	SK1	2期古	口縫部	刺突文	(1.5)		
35	陶文土器	深鉢	SK1	2期古	口縫部	刺突文	(3.3)		
36	陶文土器	深鉢	SK1	2期古	口縫部	陶文	(2.2)		
37	陶文土器	深鉢	SK1	3期	口縫部	条縫文	(2.7)		
38	陶文土器	深鉢	SK1	3期か4期	肩部	陶文	(7.5)		
39	陶文土器	深鉢	SK1	3期か4期	脚台部		(2.1)		
40	陶文土器	深鉢	SK1	時期不明	底部		(2.4)	(8.1)	
41	陶文土器	深鉢	SK2	2期か3期	底部		(1.4)	(7.2)	
42	陶文土器	深鉢	埋甕付近堆積土	3期	口縫部付近	条縫文	(6.9)		
43	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	肩部	刺突文	(2.8)		
44	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	肩部	陶文	(4.3)		
45	陶文土器	深鉢	堆積土	2期か	口縫部	押引文	(2.6)		
46	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縫部	刺突文	(4.6)		
47	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縫部	条縫文	(5.4)		
48	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縫部	条縫文, 刺突文	(3.8)		
49	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	肩部	押引文	(3.7)		
50	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か	口縫部	条縫文	(4.5)		
51	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か	口縫部	陶文	(2.6)		
52	陶文土器	深鉢	堆積土	後期	口縫部	陶文	(7.2)		

## 2区

回版	種類	器種	遺構・層位	型式	部位	地文	口径	器高	底径
1	陶文土器	深鉢	埋甕1	3期	口縫部~肩部	陶文	(39.6)	(30.8)	
2	陶文土器	深鉢	埋甕2	3期	口縫部~肩部	条縫文	40.3	(40.5)	
3	陶文土器	鉢	埋甕2十土	3期	口縫部~底部	条縫文	(20.0)	(14.3)	(7.0)
4	陶文土器	深鉢	埋甕3	2期か3期	肩部	沈縫	(34.6)		
5	陶文土器	深鉢	SP2	3期	口縫部~肩部	陶文	(23.2)	(24.5)	
6	陶文土器	深鉢	炉内土器敷	3期	口縫部~肩部	沈縫	(24.8)		
7	陶文土器	深鉢	炉内土器敷	3期	口縫部~肩部	陶文	(24.4)		
8	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	2期古	口縫部	撚糸文	(3.1)		
9	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	2期新	口縫部	撚糸文	(4.3)		
10	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	2期新	口縫部		(3.0)		
11	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	2期新	口縫部		(2.9)		
12	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	3期	口縫部	条縫文	(2.1)		
13	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	3期	口縫部	条縫文	(6.3)		
14	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	3期か	口縫部		(3.7)		
15	陶文土器	深鉢	炉上堆積土	時期不明	脚台部	条縫文	(6.8)		
16	土師器	長胴甕	炉上堆積土	古代	肩部		(13.5)		
17	陶文土器	深鉢	SB2床面	2期古	肩部	撚糸文	(10.5)		
18	陶文土器	深鉢	SB2床面	3期か	口縫部	条縫文	(3.3)		

表4 遺物観察表1

## 2区

図版	種類	器種	遺構・層位	型式	部位	地文	口径	器高	底径
19	陶文土器	深鉢	SB2床面	3期	脇部	条縹文		(4.6)	
20	陶文土器	深鉢	SB2床面	後期?	口縁部	刺み目、刺突文		(4.8)	
21	陶文土器	深鉢	SP1	中期中臺	脇部	刺突文、纏文		(3.9)	
22	陶文土器	深鉢	SP1	船元Ⅲ式A類か	口縁部	撚糸文		(6.7)	
23	陶文土器	深鉢	SP2	2期古	口縁部	条縹文		(2.5)	
24	陶文土器	深鉢	SP2	2期古	脇部	撚糸文		(4.5)	
25	陶文土器	深鉢	SP2	2期新	口縁部	撚糸文		(2.2)	
26	陶文土器	深鉢	SP2	2期新	口縁部	纏文		(3.0)	
27	陶文土器	深鉢	SP2	2期	口縁部	刺突文		(1.6)	
28	陶文土器	深鉢	SP2	3期	口縁部	纏文		(3.0)	
29	陶文土器	深鉢	SP2	2期新か3期	脇部	沈繩		(5.4)	
30	陶文土器	深鉢	SK1	2期古	口縁部	撚糸文		(2.2)	
31	陶文土器	深鉢	SK1	3期か	口縁部	刺突文		(3.6)	
32	陶文土器	深鉢	SK1	3期か	口縁部	刺突文		(2.4)	
33	陶文土器	深鉢	SK2	2期古	口縁部			(2.4)	
34	陶文土器	深鉢	SK2	3期	脇部	撚糸文		(3.3)	
35	陶文土器	深鉢	埋覆2付近堆積土	2期古	脇部	撚糸文		(7.2)	
36	陶文土器	深鉢	埋覆2付近堆積土	2期	口縁部	撚糸文		(3.6)	
37	陶文土器	深鉢	埋覆2付近堆積土	3期	口縁部	刺突文、条縹文		(4.5)	
38	陶文土器	深鉢	埋覆2付近堆積土	3期	口縁部	条縹文、纏文		(10.8)	
39	陶文土器	深鉢	埋覆2付近堆積土	2期か3期	底部			(5.6)	
40	陶文土器	深鉢	埋覆2付近堆積土	後期前葉	口縁部	刺目		(6.3)	
41	陶文土器	深鉢	埋覆3付近堆積土	2期古	口縁部	刺突文、纏文		(2.5)	
42	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	撚糸文		(3.4)	
43	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	刺突文、撚糸文		(2.7)	
44	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	撚糸文		(1.9)	
45	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	刺突文、撚糸文		(3.0)	
46	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	刺突文		(4.8)	
47	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	刺突文		(2.7)	
48	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	刺突文		(2.9)	
49	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	刺突文		(4.0)	
50	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	押引文		(2.8)	
51	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	沈繩		(2.2)	
52	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部	沈繩		(3.5)	
53	陶文土器	深鉢	堆積土	2期古	口縁部			(3.1)	
54	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	口縁部	刺突文、纏文		(3.0)	
55	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	口縁部	刺突文		(2.5)	
56	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	口縁部	纏文		(2.6)	
57	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	口縁部	沈繩		(4.4)	
58	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	口縁部	押引文		(2.7)	
59	陶文土器	深鉢	堆積土	2期新	口縁部	刺突文			
60	陶文土器	深鉢	堆積土	2期	口縁部	撚糸文		(2.2)	
61	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	条縹文		(6.6)	
62	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	条縹文		(3.6)	
63	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	条縹文		(5.2)	
64	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	条縹文、刺突文		(7.2)	
65	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	刺突文		(3.7)	
66	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	刺突文		(4.8)	
67	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	条縹文		(2.8)	
68	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	纏文		(5.2)	
69	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	口縁部	条縹文			
70	陶文土器	深鉢	堆積土	3期	脇部	纏文			
71	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か	口縁部	条縹文		(4.2)	
72	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か	底部			(4.6)	(8.2)
73	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か	底部			(4.8)	(9.0)
74	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か4期	口縁部	纏文		(5.5)	
75	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か4期	口縁部	条縹文		(5.0)	
76	陶文土器	深鉢	堆積土	3期か4期	口縁部	条縹文		(4.1)	
77	陶文土器	深鉢	堆積土	4期	口縁部	沈繩		(6.3)	
78	陶文土器	深鉢	堆積土	船元Ⅱ式	口縁部	刺突文、撚糸文		(3.8)	
79	陶文土器	深鉢	堆積土	船元Ⅱ式	口縁部	纏文		(2.4)	
80	陶文土器	深鉢	堆積土	時期不明	脚台部	条縹文		(5.4)	
81	土製品	耳飾りか	堆積土	不明			(3.0)	(2.1)	

## 3区

図版	種類	器種	遺構・層位	型式	部位	地文	口径	器高	底径
1	陶文土器	深鉢	SK1	3期	口縁部	刺突文		(5.2)	
2	陶文土器	深鉢	SK4	3期	脇部	沈繩		(3.9)	
3	陶文土器	深鉢	SD1	3期	脇部	刺突文		(5.7)	
4	陶文土器	深鉢	SD1	3期	脇部	刺目		(6.0)	

表5 遺物観察表2

## 第3章 平成28年度試掘確認・立会調査など

### 28-4 羽崎中洞古墳工事立会

#### 1. 調査原因

羽崎字中洞地内において、羽崎中洞古墳解説板の老朽化に伴い、既存解説板撤去と新規解説板設置工事が計画され、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成28年6月2日に長江が行った。

#### 2. 調査内容

既存解説板は地上部のみ撤去とし、基礎コンクリートは土中に埋めたままとした。新規看板の支柱を埋設するため、30cm×30cm×50cm程度の穴を2箇所掘削した。その中に直径10cmの擬木支柱を入れ、周りをセメントで固めた。掘削場所は、腐葉土を伴う表土、その下には凝灰質砂岩の岩盤で構成され、平面、断面ともに、遺構は見られなかった。

#### 3. 調査後の処置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できなかったことから、予定通り新規解説板を設置した。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成28年5月27日付 教文第33号	埋蔵文化財発掘届出
県教委発 平成28年6月 2日付 社文第64号の49	工事立会通知
市教委発 平成28年6月17日付 教文第39号	発掘調査終了報告

(村上)



図19 羽崎中洞古墳立会位置図

### 28-5 今渡金屋遺跡試掘調査

#### 1. 調査原因等

今渡字大清水地内において、集合住宅の新築工事が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である今渡金屋遺跡に近接しているため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成28年7月5日に長江、織田が行った。

#### 2. 調査内容

事業予定地に幅約1.0m、長さ約6.0mを2本、幅約1.0m、長さ約7.5mを1本のトレンチを設定した（図21～24）。

地表面より深さ60～80cmで、北トレンチは掘り込みが2基、溝が1条検出された。また、

西トレーンでは掘り込みが4基、東トレーンでは掘り込みが5基検出された。浅い溝や不整形の掘り込みに、規則的な配列は見られなかった。

堆積土からは鉄滓、山茶碗、中世土師器、近世陶器等約50点が出土したが、図化できない細片であった。

### 3. 調査後の措置

堆積土内から今渡金屋遺跡に近い時期の遺物や鉄滓等も見られたが、調査地は遺跡の範囲外か滅失している可能性が考えられ、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年7月11日付 教文第49号

発掘調査終了報告

(長江)

## 28-6 久々利城跡測量調査及び表探調査

平成27年度に統いて、東側方向の本丸腰曲輪、本丸帯曲輪と呼称している曲輪及び南の麓側の範囲の地形測量を平成28年7月20日～11月30日に行った（図25）。測量範囲のさらに北側には久々利城の中での最高所の曲輪があるほか、北側を遮断するための二重堀切も確認されている。西側の尾根にある曲輪も含め、地形測量や調査は継続する必要がある。

久々利城跡では地元団体とともに清掃活動や表探を行っており、約150点の遺物が採集されている。採集された地点は本丸、二の丸、奥の院などが多くみられる。遺物の種類は古瀬戸、大窯製品、山茶碗、中世土師器、窯道具、中国陶磁、古錢などが見られ、いずれも細片であるが本報告では23点を図化した（図26）。遺物の年代は15世紀後半～16世紀前半頃の年代が多く見られ、長石釉鉄絵丸皿（12）など17世紀初頭の遺物もわずかだが表探されている。窯道具が見られる特徴は同時期に操業している窯場が近い可児市の美濃金山城跡、大森城跡、土岐市の妻木城跡などとも共通している。

(長江)

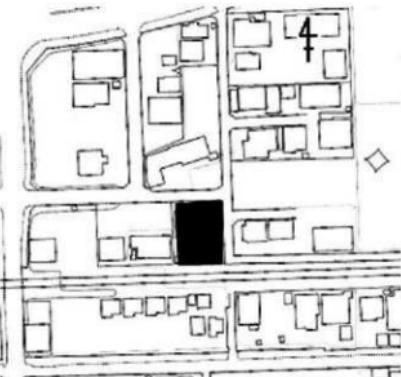


図20 今渡字大清水地内試掘位置図

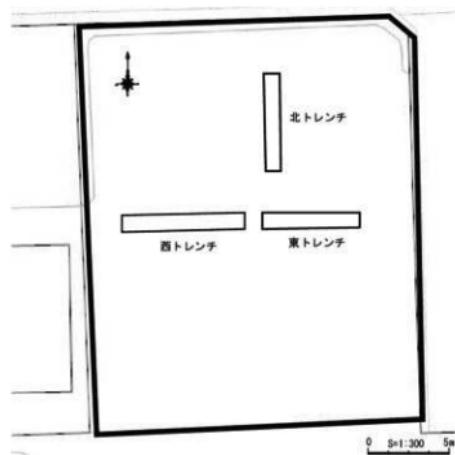


図 21 調査地内トレンチ位置図

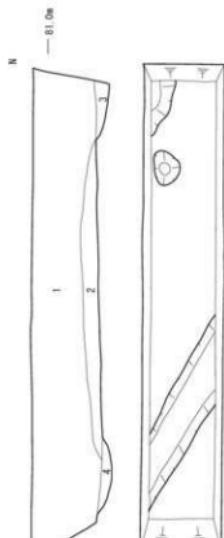


図 22 北トレンチ平面図及び東壁土層図

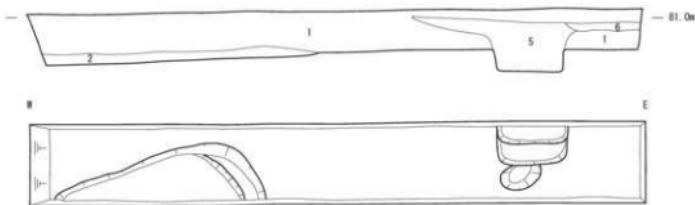


図 23 西トレンチ平面図及び北壁土層図

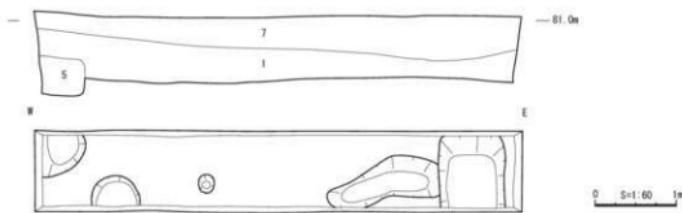
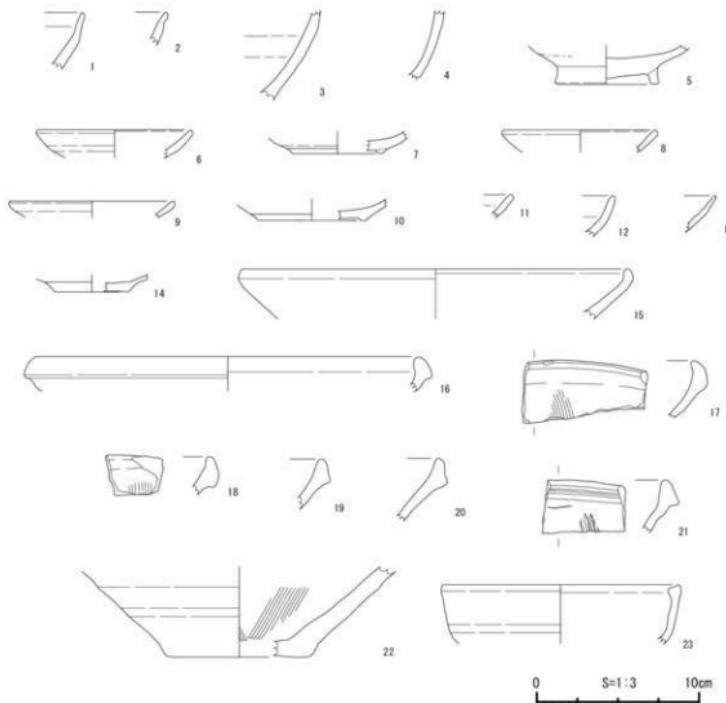


図 24 東トレンチ平面図及び北壁土層図

- 1 線灰色 地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim20mm$ の礫をわずかに含む〔ビニール含む堆積土〕
- 2 線灰色と黄褐色の土が混じる地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim20mm$ の礫を含む〔遺物含まない〕
- 3 黄褐色 地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim10mm$ の礫を含む〔ガラス片含む堆積土〕
- 4 線灰色 地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim10mm$ の礫を含む〔砂利の付いた土、性質不明〕
- 5 線灰色 地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim10mm$ の礫を含む〔ガラス片含む堆積土〕
- 6 黄褐色 地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim10mm$ の礫を含む〔ガラス片含む堆積土〕
- 7 線灰色 地質土 しまり弱い 粘性弱い  $\phi 5\sim10mm$ の礫を含む〔ガラス片含む堆積土〕



図25 久々利城跡地形測量図



図版	種類	器種	表探し位置	時期	口径	器高	底径 高台様	釉薬	その他
1	瀬戸美濃	天目茶碗	奥の院	大3	—	(3.4)	—	灰釉	
2	瀬戸美濃	天目茶碗	二の丸	大3	—	(2.0)	—	灰釉	
3	瀬戸美濃	天目茶碗	奥の院	大室	—	(5.4)	—	灰釉	
4	瀬戸美濃	天目茶碗	本丸帯曲輪	大室	—	(4.2)	—	銀粉・鉄粉	
5	瀬戸美濃	壺残	本丸帯曲輪	大1	—	(2.3)	(5.9)	灰釉	
6	瀬戸美濃	丸皿	本丸腰曲輪	大室	(9.4)	(1.7)	—	灰釉	付高台。
7	瀬戸美濃	皿類	奥の院	大室	—	(1.4)	(5.0)	灰釉	口縁部に自然釉が付着。
8	瀬戸美濃	灯明皿	本丸腰曲輪	大4	(10.0)	(1.0)	—	灰釉	
9	瀬戸美濃	縁箱小皿	奥の院	大室	—	(1.6)	—	銀粉・鉄粉	
10	瀬戸美濃	皿類	奥の院	大室	—	(1.3)	(6.3)	鉄粉	削り出し高台。
11	瀬戸美濃	丸皿	奥の院	大室	(9.4)	(1.2)	—	鉄粉	
12	瀬戸美濃	丸皿	奥の院	大室	—	(2.5)	—	良石釉	内面に絞付けあり。
13	灰釉系陶器	皿	奥の院	生田	—	(2.7)	—		
14	灰釉系陶器	皿	奥の院	生田	—	(1.1)	(4.4)		
15	瀬戸美濃	中皿	奥の院	大室	(23.7)	(3.0)	—	銀粉	
16	瀬戸美濃	壺鉢	奥の院	大1	(23.5)	(1.9)	—	銀粉	
17	瀬戸美濃	壺鉢	本丸帯曲輪	大1	—	(3.5)	—	銀粉	
18	瀬戸美濃	壺鉢	本丸腰曲輪	大1	—	(2.9)	—	銀粉	
19	瀬戸美濃	壺鉢	奥の院	大1	—	(3.1)	—	銀粉	
20	瀬戸美濃	壺鉢	本丸帯曲輪	大1	—	(3.8)	—	銀粉	
21	瀬戸美濃	二の丸	大2	—	(3.2)	—	銀粉		
22	瀬戸美濃	本丸腰曲輪	大室	—	(5.5)	(8.4)	銀粉		
23	瀬戸美濃	匣体	奥の院	大室	(14.4)	(3.4)	—		外面に自然釉が付着。

図26 久々利城跡表探し遺物実測図

## 28-7 金山城下町遺跡工事立会

### 1. 調査原因

兼山字本町地内において、住宅新築工事が計画され、事前協議がなされた。建設地は金山城下町遺跡の範囲内であるため、所定の手続きを経た上で、工事立会を実施した。

立会調査は平成28年8月8日に長江が行った。

### 2. 調査内容

新築家屋の基礎を造成するため、現地表面より深度約80cmまで掘削を行ったが、平面、断面とともに遺構は見られなかった。

立会場所には過去に住宅が建っており、その住宅造成時に遺構が滅失、あるいはもともと遺構がなかった可能性が考えられる。

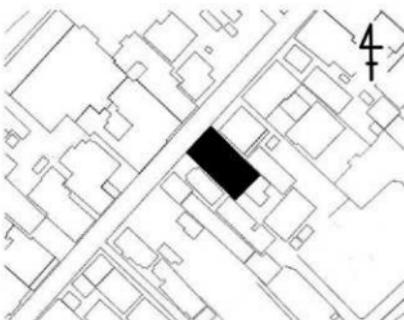


図27 金山城下町遺跡立会位置図

### 3. 調査後の処置

立会調査結果により、施工者に計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年7月28日付 教文第56号 埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成28年8月 5日付 社文第63号の319 工事立会通知

市教委発 平成28年8月10日付 教文第59号 発掘調査終了報告

(村上)

## 28-8 久々利城跡工事立会

### 1. 調査原因

可児市が計画した久々利城跡地形測量業務の嚆矢として、埋蔵文化財包蔵地の範囲内に測量杭を設置する必要が生じたため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成28年8月30日に長江が行った。

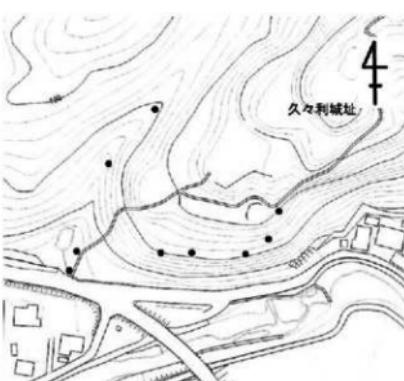


図28 久々利城跡立会位置図

### 2. 調査内容

4.5cm×4.5cmの木杭9本を打ち込みにより設置した。そのうち1本が包蔵地内に位置するが、打ち込み時に遺構は見られなかった。

### 3. 調査後の処置

施工箇所には遺構、遺物は確認できないため、計画通り施工した。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年8月4日付 教文第55号 埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成28年8月9日付 社文第64号の103 工事立会通知

市教委発 平成28年9月6日付 教文第61号 発掘調査終了報告

(村上)

## 28-10 西野遺跡工事立会

### 1. 調査原因

川合字西野地内において、ガス管理設工事が計画され、事前協議がなされた。施工箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である西野遺跡の範囲内であるため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成28年10月4日に織田が行った。

### 2. 調査内容

現地表面から、深度約60cmまで掘削したが、地山面には達せず、かつ平面、断面とも遺構が見られなかった。

本調査地は、西野遺跡の範囲外であるか、または道路の敷設など過去の開発によって遺構が滅失している可能性が考えられる。



図29 西野遺跡立会位置図

### 3. 調査後の処置

遺構や遺物が確認できないため、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年9月26日付 教文第64号 埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成28年9月28日付 社文第63号の444 工事立会通知

市教委発 平成28年10月13日付 教文第68号 発掘調査終了報告

(村上)

## 28-11 大萱古窯跡群（弥七田古窯跡）工事立会

### 1. 調査原因

平成25年から、可児市は大萱古窯跡群の国史跡指定に向けた調査を行っている。今回の調査は大萱古窯跡群の弥七田古窯跡を測量調査するため、測量杭を設置する必要性が生じた。このため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成28年10月13日に長江が行った。

### 2. 調査内容

設置する4.5cm×4.5cm×45cmのプラスチック杭20本のうち、1本が、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲に該当するが、打ち込み時に遺構は見られなかった。

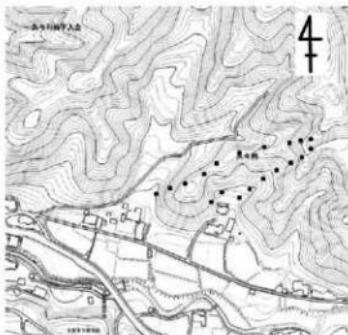


図30 弥七田古窯跡立会位置図

### 3. 調査後の処置

遺構が確認できないため、計画通り施工した。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年 9月20日付 教文第62号

埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成28年10月 4日付 社文第64号の151

工事立会通知

市教委発 平成28年10月18日付 教文第72号

発掘調査終了報告

(村上)

## 28-12 土田定安遺跡工事立会

### 1. 調査原因

土田字定安地内にて、境界杭の設置工事が計画され、事前協議がなされた。施工箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である土田定安遺跡の範囲内にある。よって施工時における遺構の有無確認の必要性が生じたため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成28年11月2日に長江が行った。

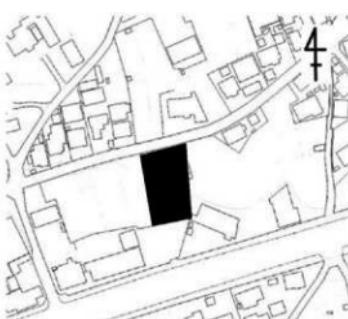


図31 土田定安遺跡立会位置図

### 2. 調査内容

境界杭の設置は4箇所5本であり、掘削範囲は、25cm×25cm×40cmである。掘削土の中にはビニル片も含まれている。いずれの箇所も掘削に際して平面、断面ともに遺構は見られなかった。

掘削土中には遺物は見られなかったが、地表面には須恵器片や山茶碗片などが散布している。

### 3. 調査後の処置

掘削土中に遺構・遺物が見られなかったため、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年10月13日付 教文第69号	埋蔵文化財発掘届出
県教委発 平成28年10月20日付 社文第63号の474	工事立会通知
市教委発 平成28年11月 8日付 教文第79号	発掘調査終了報告

(村上)

## 28-13 可児工業高校南遺跡試掘調査

### 1. 調査原因

下恵土字清水地内において、個人住宅の新築工事が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である可児工業高校南遺跡内であるため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成28年12月8日に長江、織田が行った。

### 2. 調査内容

事業予定地に約9.0m×1.0m、約8.1m×1.0mのトレンチを設定した（図33～35）。現地表面から50～70cmの深さで北トレンチでは山茶碗、近代陶器、現代の鉄片を含む掘り込みが5基と溝が1条、南トレンチでは山茶碗、近世陶器を含む時期不明の掘り込み11基が検出された。いずれの掘り込みも不整形で配置に規則性が見られないことから、遺構ではないものと思われる。

遺物は堆積土中から須恵器、土師器、山茶碗など約100点が出土したが、いずれも細片であり図化できなかった。

### 3. 調査後の処置

調査地は遺跡の範囲外か滅失している可能性が考えられ、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年12月13日付 教文第86号	発掘調査終了報告
市教委発 平成28年12月13日付 教文第87号	埋蔵文化財発掘届出

(長江)

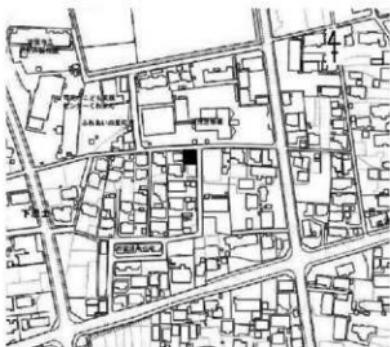
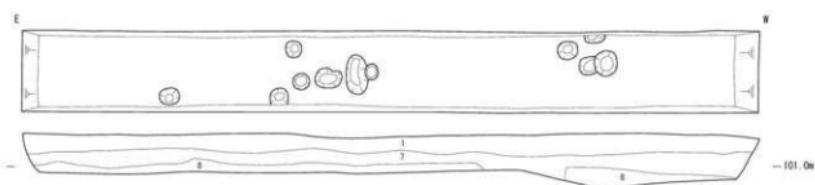
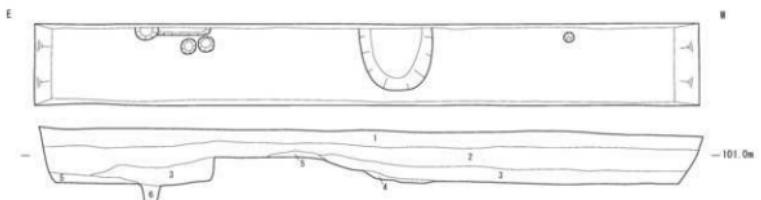
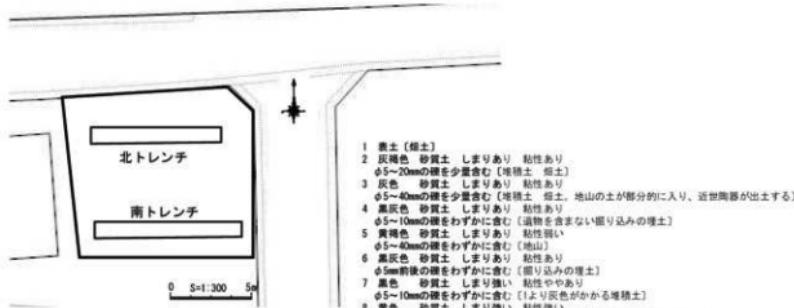


図32 下恵土字清水地内試掘位置図



## 28-14 鳴子西遺跡試掘調査

### 1. 調査原因

今渡字中鳴子地内において、分譲住宅建設が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である鳴子西遺跡に近接しているため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成29年1月12日に長江、織田が行った。



図36 今渡字中鳴子地内試掘位置図

### 2. 調査内容

事業予定地内の北側に東西長さ約35.2m、幅0.8mのトレンチを1本設定した（図37）。

地表面より掘削深度20～30cmで地山面となり、現代のゴミを含む溝が見られた他は不整形の掘り込みが見られた。いずれも遺物を伴わず、規則的な配列は見られない。

### 3. 調査後の処置

調査地は遺跡の範囲外か滅失している可能性が考えられ、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成29年1月13日付 教文第94号 発掘調査終了報告

（長江）

## 28-15 柿田遺跡工事立会

### 1. 調査原因

柿田字甫田上地内、既設建物の解体、同じ場所へ住宅新築工事をする計画がされ、事前協議がなされた。施工箇所は周知の埋蔵文化財包蔵地である柿田遺跡の範囲内にあり、遺構・遺物の有無を確認するため、所定の手続きを経て工事立会を実施した。

立会調査は、平成29年2月16日に長江が行った。

### 2. 調査内容

既設建物は木造平屋建てである。解体のための基礎を撤去する際に、立会調査を実施した。撤去に伴い、地表面より1.0mほど掘削を行った。地表面から掘削深度約50cmまでは、既設建物を建てる際の造成がされており、その直下が地山となる。地山面には遺構と判断できる掘り込みは見られず、掘削土中に遺物は見られなかった。

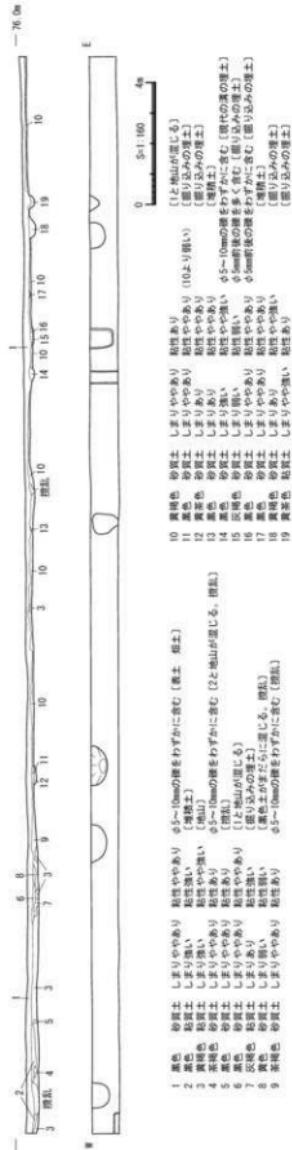
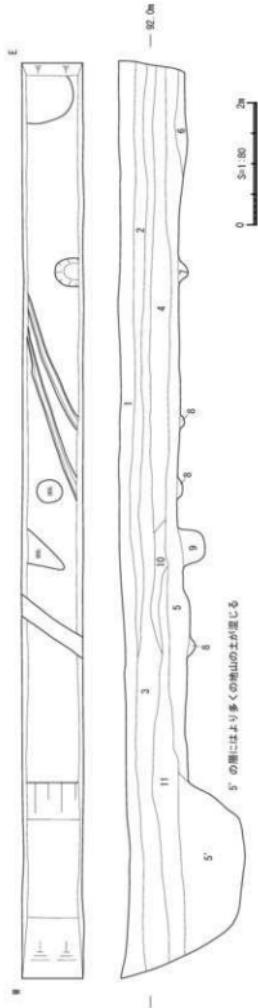


図37 中鳴子トレスチ平面図及び北壁土層図



本調査地は、遺跡の中心部分と比べ南方の山側に向かう微高地に該当するため、柿田遺跡の範囲外であるか、既設建物の造成時に遺構がすでに滅失している可能性が考えられる。

### 3. 調査後の処置

上述の判断内容をもとに、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。



図38 柿田遺跡立会位置図

### 4. 文書手続

市教委発 平成28年12月22日付 教文第93号

埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成29年 1月 4日付 社文第63号の630

工事立会通知

市教委発 平成29年 2月17日付 教文第107号

発掘調査終了報告

(村上)

## 28-16 狐塚古墳試掘調査

### 1. 調査原因

川合字上田地内において、個人住宅の新築工事が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である狐塚古墳に近接しているため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成29年1月18日に長江、織田が行った。

### 2. 調査内容

事業予定地内の中央付近に東西長さ約15.0m、幅1.0mのトレンチを1本設定した（図40）。地表面より掘削深度1.0m程度で地山面となるが、地山面までは造成土により埋められている。地山面では掘り込みが1基と溝が2条見られるが、遺物は伴わず性格は不明である。堆積土からは山茶碗や近世陶器が出土した。



図39 川合字上田地内試掘位置図

### 3. 調査後の処置

狐塚古墳は墳長63mの前方後円墳であったといわれるが、滅失してしまっている。今回の調査地で周溝の一部が検出される可能性があったが、改変が入り周溝は検出されなかつたため、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成29年1月23日付 教文第96号

発掘調査終了報告

(長江)

### 28-17 久々利城跡工事立会

#### 1. 調査原因

「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、久々利城跡の伐採等を行ったことを周知する看板の設置が計画され、事前協議がなされた。設置箇所は周知の埋蔵文化財包蔵地である久々利城跡の範囲内であり、遺構・遺物の有無を確認するため工事立会を実施した。

立会調査は、平成29年2月23日に長江が行った。

#### 2. 調査内容

設置箇所は、遺構の可能性が低い場所を選定し、支柱埋設のため、20cm×20cm×50cmの穴を2箇所掘削した。掘削範囲は狭小であり、遺構・遺物は見られなかった。



図41 久々利城跡立会位置図

#### 3. 調査後の処置

上述のことから、計画通り看板を設置した。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成29年2月 9日付 教文第102号

埋蔵文化財発掘通知

県教委発 平成29年2月17日付 社文第64号の226

工事立会通知

市教委発 平成29年2月27日付 教文第110号

発掘調査終了報告

(村上)

### 28-18 大萱古窯跡群（牟田洞古窯跡）工事立会

#### 1. 調査原因

本市における「美濃桃山陶の聖地整備事業」の一環として、大萱古窯跡群（牟田洞古窯跡）内に立地する陶芸家 荒川豊藏の窯へ続く見学路整備が計画され、業務を民間企業に委託した。施工箇所は周知の埋蔵文化財包蔵地である牟田洞古窯跡の範囲内であり、遺構・遺物の有無を確認するため工事立会を実施した。

立会調査は、平成29年3月28日に長江が行った。

## 2. 調査内容

施工概要是、荒川豊藏資料館から窯に至るまでの既存の木製階段のうち、腐朽している33段の入れ替えを行う。また、見学路以外の史跡内侵入を防ぐため、上述の見学路68mの両脇に、高さ1.5mの木杭を2.0m間隔で計34本設置するものである。木杭は径6.0cmで、深さ40cm打ち込み、木製階段の入れ替えは掘削を行わずに設置する。施工箇所で遺構・遺物は検出されなかった。



図42 牟田洞古窯跡立会位置図

本工事は、過去に荒川豊藏の手により改変が入っている部分であった。荒川豊藏の窯を公開するため、安全面および史跡保護に必要な整備であることから、計画通り施工した。

## 4. 文書手続

市教委発 平成29年2月20日付 教文第109号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発 平成29年2月24日付 社文第64号の229	工事立会通知
市教委発 平成29年3月30日付 教文第126号	発掘調査終了報告

(村上)

## 第4章 平成29年度試掘確認・立会調査など

### 29-1 土田定安遺跡試掘調査

#### 1. 調査原因

土田字定安地内において、分譲住宅建設が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である土田定安遺跡の範囲内であるため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成29年4月12日に長江、織田が行った。

#### 2. 調査内容

事業予定地の南側に東西長さ約19.2m、幅1.6mのトレンチを1本設定した(図44)。地表面より掘削深度60cmで地山面となり、近現代の溝や掘り込み、遺物が伴わない性格不明の掘り込みが見られた。堆積土からは須恵器、土師器、山茶碗、近世陶器が出土したが、その7割弱が表面採集した山茶碗であった。そのうち9点を図化した(図45)。

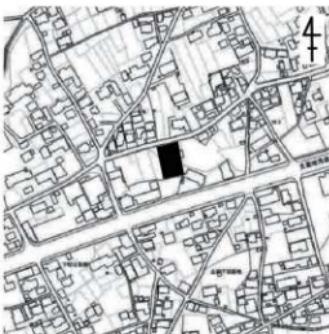


図43 土田字定安地内試掘位置図

#### 3. 調査後の処置

調査地は遺跡の範囲外か滅失している可能性が考えられ、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成29年4月18日付 教文第12号

発掘調査終了報告

市教委発 平成29年4月18日付 教文第13号

埋蔵文化財発掘届出

(長江)

### 29-2 大森笹洞5号窯・6号窯本発掘調査

#### 1. 調査原因

大森字笹洞地内において、東海旅客鉄道株式会社より中央新幹線事業に伴う非常口及び換気施設、管理用道路設置工事が計画された。計画予定地には周知の埋蔵文化財包蔵地である大森笹洞5号窯跡および6号窯跡が所在するため、工事計画範囲に基づき協議を行い、記録保存調査を実施した。5号窯は窯体を含む640m<sup>3</sup>、6号窯は窯体を除く物原部分約60m<sup>3</sup>を本発掘調査の対象区域とし、平成29年6月27日から9月28日まで行った。詳細は平成30年12月21日に刊行した『大森笹洞5・6号古窯跡発掘調査報告書』に掲載されているため、ここでは概略を記述する。

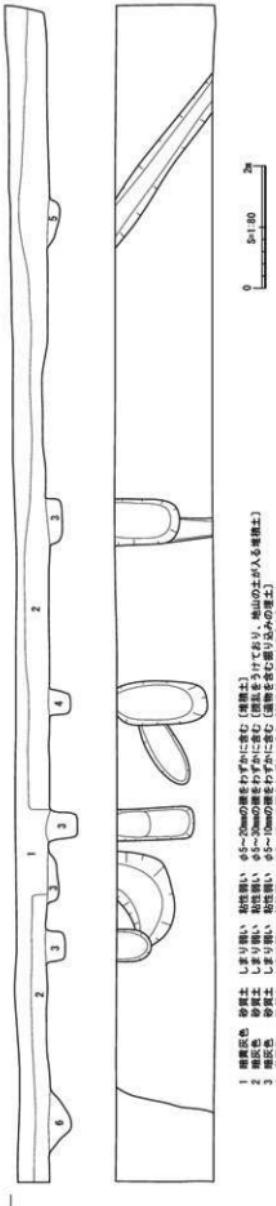


図 44 レンチ平面図及び北壁土層図

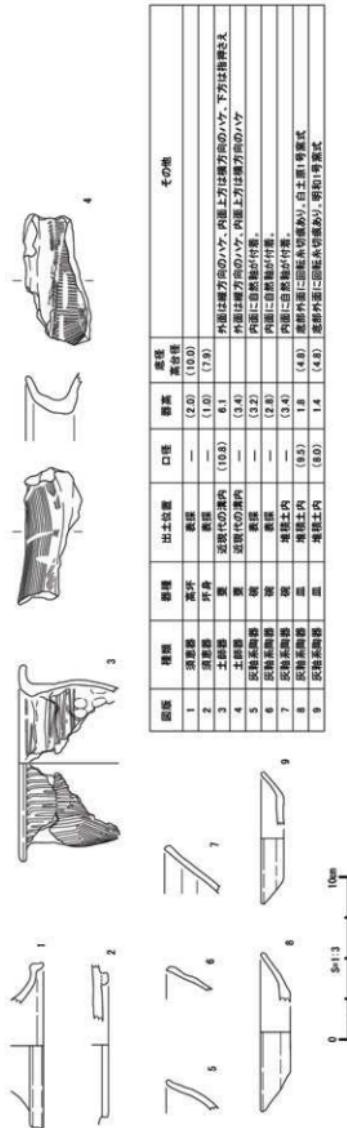


図 45 遺物測定図

## 2. 調査内容

大森笹洞5号窯は、山茶碗を焼いた窯跡であり、分炎柱の後方両脇から左右の側壁に向かって厚さ5~10cmの間仕切り障壁を有する珍しい構造を伴う（図46~48）。窯の全長は8.9m、煙道部長は約1.0m、焼成室長約5.2m、燃焼室長は約2.7mを測る。原位置を保つ焼台は67個で、小碗用の焼台が焚口からみて左側に集中する。断ち割り調査の結果、床面はスサ入り粘土を伴う床面1枚のみであった。窯跡左側には約2.4m×約1.8mの平坦部があり、製品選別用の作業場と想定される。出土遺物の7割が碗、3割が小碗であった。少數ではあるが、片口碗、大碗、台付碗、高环、短頸壺、長頸瓶、仏器も伴う。煙道部の立ち上がりといった窯体の特徴や遺物から、操業時期は、矢戸上野2号～谷迫間2号窯式と考えられる。

大森笹洞6号窯は、窯体が未調査であるため、構造などは不明であるが、灰釉陶器と須恵器を併焼していたことが判明した。物原と考えられる灰層は東西約5.9m、南北約8.6mの範囲に広がる。出土遺物のうち、灰釉陶器の約44%は碗、約15%は皿が占めており、重ね焼きの跡を残すものがみられる。須恵器の焼成割合は全製品のうち約6%であった。瓶類の破片も出土したが、自然釉のかかり具合、碗との溶着痕跡から、焼台に転用された可能性を示している。出土遺物から判別される操業時期は光ヶ丘1号～大原2号窯式と考えられる。

## 3. 調査後の処置

記録保存の調査終了後、当初のとおり工事が行われた。

## 4. 文書手続

事業者発 平成29年6月5日付

埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成29年6月23日付 文伝第73号の198

埋蔵文化財発掘調査（通知）

市教委発 平成29年6月23日付 教文第29号

埋蔵文化財発掘調査報告

市教委発 平成29年10月4日付 教文第53号

発掘調査終了報告

(村上)

## 29-3 柿田遺跡工事立会

### 1. 調査原因

柿田地内において、ガス管新設工事が計画され、事前協議がなされた。施工箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柿田遺跡の範囲内にあたるため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成29年8月1日に長江が行った。

### 2. 調査内容

本調査区内では、ガス管新設用に幅1.0~2.0m、深度1.7~3.5mの溝を掘削し、その後径40cmガス管を敷設する。掘削箇所はすでに道路が敷設され、その際の埋め立て用の土で地表面から深度1.4~1.5mまで造成されている。立会調査時には、造成土及びその直下の暗褐色粘土の地山層から遺構・遺

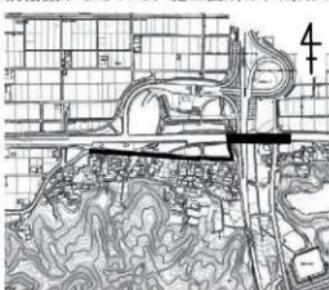


図49 柿田遺跡立会位置図

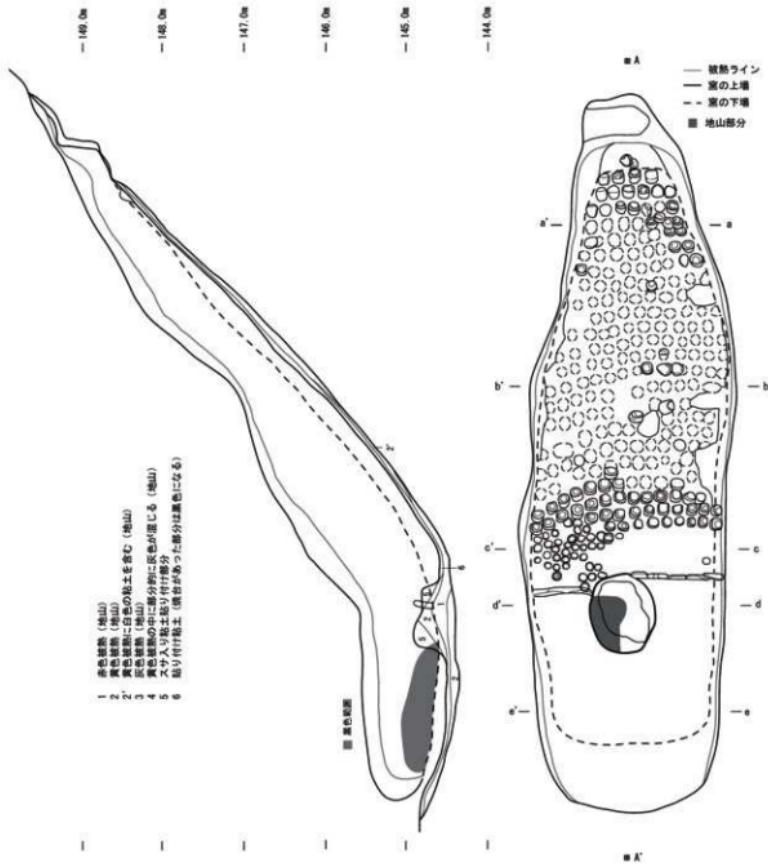


図46 窯体平面図及び立面図

0 5=1:60 1m



図47 d-d'断面より間仕切り障壁見通図



図48 d-d'断面図

物は発見されなかった。

### 3. 調査後の処置

上述の理由、および掘削範囲が狭小であることから、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成29年6月30日付 教文第30号 埋蔵文化財発掘届出

県発 平成29年7月6日付 文伝第73号の234 工事立会通知

市教委発 平成29年8月10日付 教文第39号 発掘調査終了報告

(村上)

## 29-6 柿田遺跡・柿田西遺跡本発掘調査

### 1. 調査原因

柿田・平貝戸・渕之上地内において、約20ha の区画整理事業が計画された。計画予定地の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地である柿田遺跡の範囲内であった。当該遺跡は過去の調査から、大規模集落、水田、流路の跡が見つかっており、今回の計画予定地に遺跡範囲が及んでいることが想定されるため、遺構の有無、範囲を確認することになった。本調査は、平成29年10月25日から平成30年2月23日まで行った。詳細は平成31年3月15日に刊行した『柿田西遺跡発掘調査報告書』に掲載されているため、ここでは概略を記述する。

### 2. 調査内容

本調査は、計画範囲内に約1.0m × 40.0m のトレンチを40地点（T-1～T-40）設定したが、T-23は湧水による壁面崩落により土層固化を見送り、T-7は未調査とし、実質39地点、計1,560m<sup>2</sup>の調査となった（図50）。試掘調査の結果、計11箇所のトレンチで遺物を伴う土坑や溝を検出した。中でも特筆すべき成果として、T-8で検出された溝底部から古墳時代の土師器・須恵器が集積した状態で出土した。T-10からは、人工的に横木を積み上げた水制遺構、T-16で検出した2条の溝から、弥生土器、土師器、木材が多く出土した。

また遺構・遺物の出土状況から、本遺跡が大きく3時期に分かれることが判明した。第1期は弥生時代後期から古墳時代前期（柿田遺跡のII～III期）で、周辺遺跡から同時期の遺構・遺物も見られ、広範囲にわたる集落が想定される。第2期は古墳時代中期～後期（柿田遺跡のIV期）に相当することが判明したが、集落の規模は縮小していると考えられる。第3期は中世以降（柿田遺跡のVI～VII期）と考えられるが、出土した小破片からの時期を想定しているため、遺跡の範囲等は不明瞭である。

### 3. 調査後の処置

本調査を経て発見した柿田遺跡範囲外の7地点の遺跡は、柿田遺跡と距離が離れており、かつ関連性が不明瞭であるため、文化財保護法第97条の手続きを行い、「柿田西遺跡」として登録した。またこれらの7地点はそれぞれ、柿田西遺跡 A～G 地点（21214-11960～11966）とした。

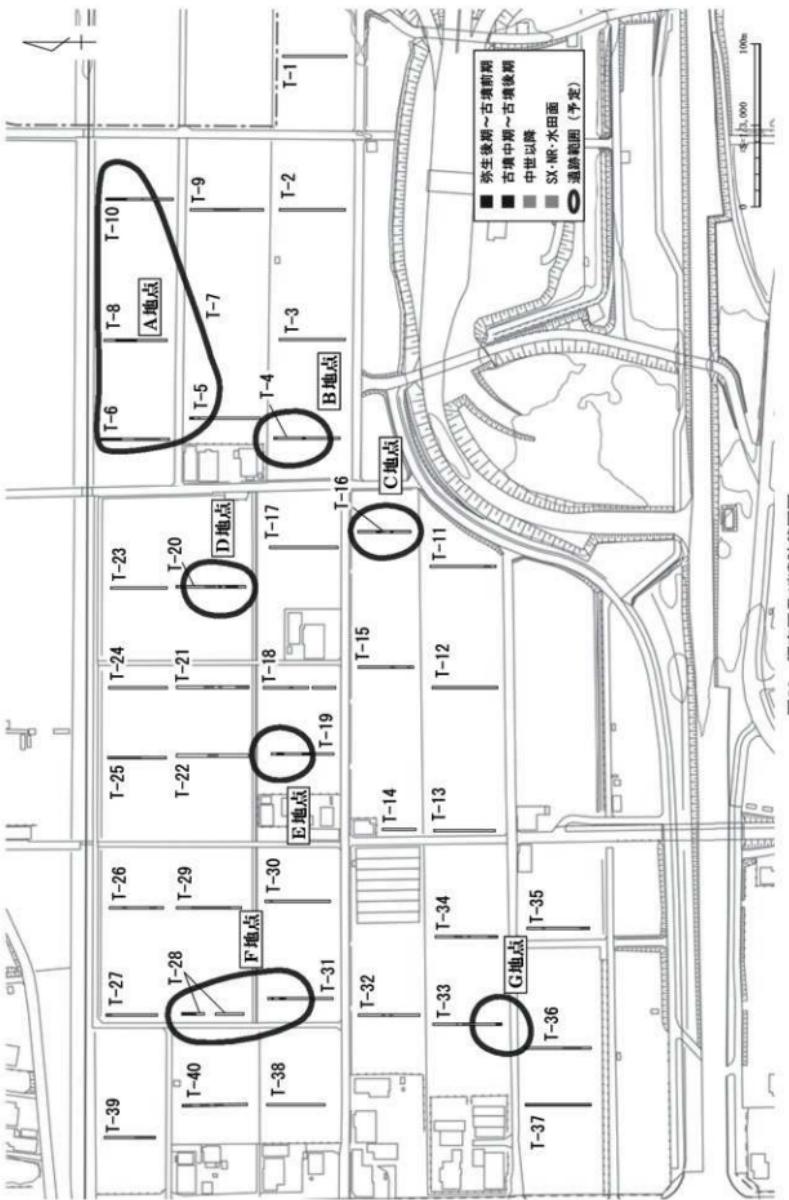


図50 調査区及び歴跡範囲図

#### 4. 文書手続

市教委発 平成30年3月12日付 教文第106号  
市教委発 平成30年6月25日付 教文第27号

発掘調査終了報告  
遺跡発見通知

(村上)

### 29-7 今渡金屋遺跡試掘調査

#### 1. 調査原因

今渡字住吉浦地内において、アパート建設が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である今渡金屋遺跡に近接しているため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘確認は、平成29年11月24日に長江、織田が行った。



図51 今渡字住吉浦地内試掘位置図

#### 2. 調査内容

事業予定地の北側の南北方向に長さ約14.0m、幅1.0mのトレンチを1本設定した(図52)。

地表面より掘削深度50~90cmで地山面となり、形状が不明な掘り込みや溝などが見られた。掘り込みの中には中世土師器や鉄滓が見られるが、それとともに江戸時代後期の陶器が伴う。鉄滓などがみられるが、過去の金屋遺跡の調査では調査地よりも標高の高い位置で遺構が検出されており、堆積土に地山の土が混じることからも変化は入っていると想定される。

堆積土からは鉄滓、近世陶器、山茶碗など約25点が出土し、そのうち3点を図化した(図53)。

#### 3. 調査後の処置

調査地は遺跡の範囲外か滅失している可能性が考えられ、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成29年11月30日付 教文第14号 発掘調査終了報告

(長江)

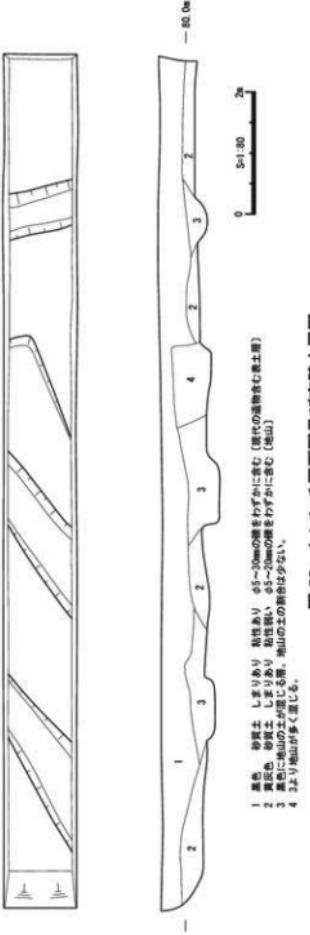


図 52 トレンチ平面図及び断面図

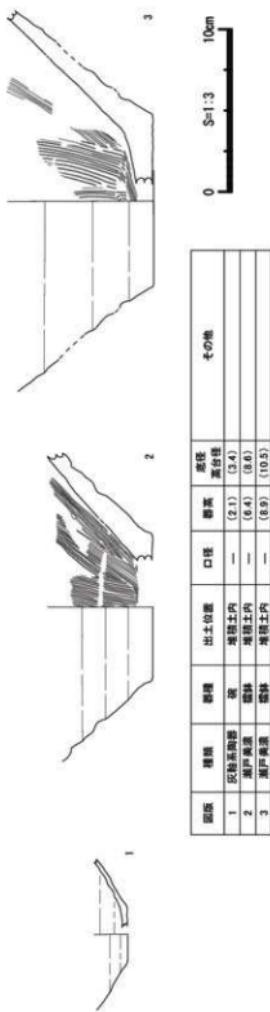


図 53 遺物実測図

## 29-8 土田城跡工事立会

### 1. 調査原因

土田字大脇地内において、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所より、防災事業のための境界杭設置が計画され、事前協議がなされた。施工箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である土田城跡の範囲内にあたるため、所定の手続きを経て工事立会を実施した。

立会調査は、平成30年1月15日に長江が行った。

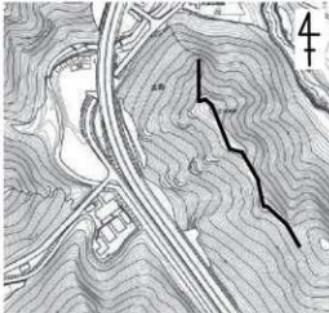


図54 土田城跡立会位置図

### 2. 調査内容

本調査区域において、山の稜線に沿いながら、幅4.5cm 角の境界杭及び金属鉢の打ち込みを24箇所実施した。境界杭の打ち込み深度は30~40cm であったが、打ち込みのため、設置時に遺構・遺物は見られなかった。

### 3. 調査後の処置

打ち込み範囲が狭小であることから、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成29年10月30日付	教文第57号	埋蔵文化財発掘通知
県発 平成29年11月7日付	文伝第74号の147	工事立会通知
市教委発 平成30年1月22日付	教文第86号	発掘調査終了報告

(村上)

## 29-9 今渡遺跡工事立会

### 1. 調査原因

今渡字大清水地内において、既存家屋の解体及び住宅新築工事が計画され、事前協議がなされた。施工箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である今渡遺跡の範囲内にあたるため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成30年1月25日に織田が行った。



図55 今渡遺跡立会位置図

### 2. 調査内容

本工事は既存家屋解体・基礎撤去後に同位置に新築家屋を建設するため、新たに柱状改良を行うものである。基礎部分の最大掘削深度は、約76cm である。基礎撤去時の立会調査の結果、撤去された建物の基礎は深度約30cm まで入っていることがわかった。また、新築住宅の基礎工事に対しても、造成土直下のパラス・コンクリート片が

混じる茶褐色度土層が検出され、地山面まで到達しなかった。なお、掘削土中の平面および断面には遺構・遺物ともに見られなかった。

### 3. 調査後の処置

遺跡範囲内において、遺構・遺物が検出されなかったことから、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成30年1月4日付 教文第82号 埋蔵文化財発掘通知

県発 平成30年1月9日付 文伝第73号の649 工事立会通知

市教委発 平成30年1月29日付 教文第86号 発掘調査終了報告

(村上)

#### <参考文献>

- 春日井恒 長谷川幸志 2003「岐阜県美濃地方における縄文時代建物遺構の変遷」『関西縄文時代の集落・墓地と生業』  
関西縄文文化研究会
- 可児市教育委員会 1994 「川合遺跡群」
- 可児市教育委員会 2017 「可児市市内遺跡発掘調査報告書（H26～27年度）」
- 織籠茂・高橋健太郎 「中富式・神明式土器」『総覧 縄文土器』2008 「総覧 縄文土器」刊行委員会
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2000 「戸入村平遺跡II」
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2007 「塚奥山遺跡」
- 可児市教育委員会 1989 「塚原遺跡・塚原古墳群」
- 高橋健太郎 「咲烟貝塚一群 A類系土器の変遷に見る地域性とその社会的背景 -特に3・4期を中心とする-」東海縄文研究  
会第4回例会
- 中津川市教育委員会 1985 「阿曾田遺跡発掘調査報告書 -阿木川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-」

図版1

1  
区



1区完掘全景(南西より)



1区東壁土層(南西より)



1区南壁土層(北より)



竪穴住居(SB1)検出(北西より)



SB1SP1(南より)



SB1SP2(南より)



SB1全景(西より)



SB1埋甕1(北より)



SB1埋甕1(西より)



SB1炉跡土層(北より)



SB1炉跡(西より)



SB1炉跡東面(西より)



SB1炉跡南面(北より)

図版3

2



2区完掘全景(南西より)



2区検出(北東より)



2区西壁土層(東より)



SB2SK5(西より)



SB2SP1(西より)



SB2SP2(南より)



SB2埋甕1(南より)



SB2埋甕2(東より)



SB2埋甕3(南より)



SB2炉跡検出(東より)



SB2炉跡(石除去後)(南より)



SB2炉跡土器敷(南より)



SB2炉跡土器敷(南より)

図版5

2区



SB2炉跡西面(東より)



SB2炉跡北面(南より)



SB2炉跡南面(北より)



SB2炉跡底面(南より)

3区



3区検出全景(北より)



3区完掘全景(北東より)



3区西壁土層(北東より)

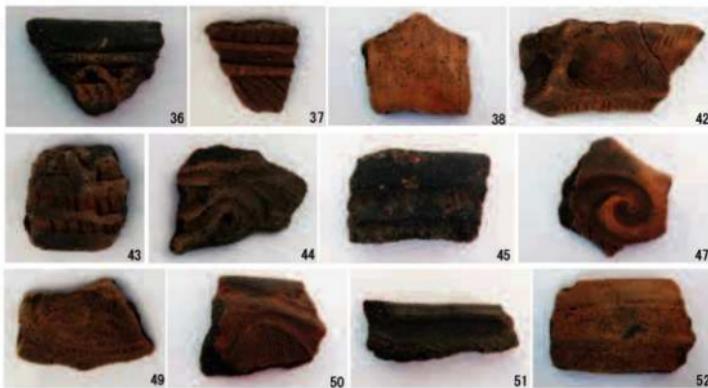


SD1(北より)



図版7

1



2



2



2



2



4



図版9

図2



図版10



図版11



28-5 今渡金屋遺跡東T検出(西より)



28-5 今渡金屋遺跡北T完掘(北より)



28-6 久々利城跡表採資料



28-7 金山城下町遺跡工事立会



28-10 西野遺跡工事立会



28-12 土田定安遺跡工事立会(西より)



28-13 可児工業高校南遺跡南T完掘(東より)



28-13 可児工業高校南遺跡北T完掘(東より)



28-14 鳴子西遺跡完掘(西より)



28-14 鳴子西遺跡完掘(南より)



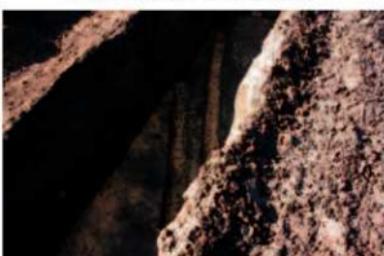
28-15 柿田遺跡工事立会(南より)



28-15 柿田遺跡工事立会(北より)



28-16 狐塚古墳完掘(北東より)



28-16 狐塚古墳完掘(北東より)



29-1 土田定安遺跡完掘(西より)



29-1 土田定安遺跡試掘土層(南より)

図版13



29-2 大森笹洞5号窯跡完掘(西より)



29-2 間仕切り障壁と分炎柱(西より)



29-3 柿田遺跡工事立会



29-6 柿田西遺跡16T遺物検出状況(南東より)



29-6 柿田西遺跡28T遺物検出状況(北西より)



29-7 今渡金屋遺跡完掘(東より)



29-7 今渡金屋遺跡完掘(北より)



29-9 今渡遺跡工事立会基礎撤去後(南より)

## 報告書抄録

ふりがな	しゅくいせきおよびかにし しないいせき はくつちょうさ ほうこくしょ						
書名	宿遺跡及び可児市市内遺跡発掘調査報告書 (H28~29年度)						
副書名							
巻名							
シリーズ名	可児市埋文調査報告						
シリーズ番号	56						
編集者名	長江真和 村上慶介						
編集機関	可児市文化スポーツ部文化財課						
所在地	〒 509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地						
発行年月日	西暦 2020年3月27日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地名	コード		北緯	東経	調査期間 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
宿遺跡 他33地点	岐阜県可児市内	21214	4703他				住宅開発等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
宿遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居2軒	縄文土器、石器		竪穴住居には埋甕が伴い、貼石をもつ炉跡が検出された。	

可児市埋文調査報告56

### 宿遺跡及び可児市市内遺跡発掘調査報告書 (H28~29年度)

令和2年3月27日 印刷

令和2年3月27日 発行

編集・発行 可児市文化スポーツ部 文化財課

〒 509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地

Tel 0574-62-1111 Fax 0574-63-6751

印 刷 丸理印刷株式会社